

5 試験研究

5.1 担当の活動概要

(1) 温暖化対策担当

温暖化を含む気候変動は、今や地球規模の最も重要な環境問題として認識されている。単に気温が上昇するという現象に止まらず、降水量への影響や自然環境への影響、健康影響など人間の生活基盤や生態系に様々な影響を与えている。また、極端な気象現象の頻度を増加させ気象災害を引き起こすとも考えられている。かつて、気候変動の影響は北極海における急激な氷の減少や、海面上昇による低海拔島嶼への浸水など、日本から離れた場所で顕在化していると捉えられていたが、近年徐々に日本や埼玉県など中庸な気候の地域にもその影響は広がり顕在化しつつある。

埼玉県は国内でも特に夏場の気温が高い地域として知られている。2007年8月16日には最高気温40.9℃を記録し、当時の日本の最高気温を74年ぶりに更新した。また、長期的にも埼玉県の気温は上昇傾向にあり、熊谷気象台の年平均気温は、1897年から2014年までの間に100年換算で2.0℃上昇した。これは、気象庁が示したほぼ同じ期間の日本の年平均気温の上昇率1.1℃/100年を大きく上回っている。また、1980年以降の埼玉県の気温上昇は著しく、1980年から2014年までの間の気温上昇率は100年換算で4.9℃に達している。このような埼玉県における急激な気温上昇は地球温暖化だけではなく、都市化に伴い気温が上昇するヒートアイランド現象との複合的な現象だと考えられるが、実態として埼玉県のような地域でも気温は上昇し様々な影響も出始めている。

埼玉県ではこれまでも地球温暖化対策地域推進計画等に基づき、様々な温暖化対策やヒートアイランド対策を実行してきた。平成21年2月には「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050ー埼玉県地球温暖化対策実行計画ー」を策定し、中期的温室効果ガス削減目標と実現のための施策を示し推進を図ってきた。また、平成21年3月には「埼玉県ヒートアイランド現象対策ガイドライン」を策定し、具体的なヒートアイランド現象対策を提示した。さらに、平成23年からは県独自の取り組みとして目標設定型排出量取引制度をスタートさせた。

このように、埼玉県では、近年、積極的な温暖化対策施策を展開しているが、この状況に呼応し、環境科学国際センターでは、平成22年4月に新たな担当として「温暖化対策担当」を設置し、温暖化対策に関する研究に本格的に取り組みはじめた。

現在、温暖化対策担当では、以前から実施してきた二酸化炭素やフロン類などの温室効果ガスモニタリング、ヒートアイランド現象の把握を目的とした県内温度実態調査に加え、埼玉県の温室効果ガス排出量推計や、県内自治体の温暖化対策を支援するため全市町村の温室効果ガス排出量推計に取り組んでいる。また、環境省などの温暖化対策研究プロジェクトにも参加し、埼玉県が実施している温暖化対策を、緩和策と適応策の観点から支援するための研究活動を行っている。

(2) 大気環境担当

埼玉県は首都圏の北側に位置し、固定及び移動発生源からの大気汚染物質の影響を強く受ける地域である。さらに、その地理的条件により、光化学大気汚染も著しい。最近の諸施策により、従来環境基準達成率が低かった二酸化窒素や浮遊粒子状物質の達成率は向上し、ともに平成19年度以来環境基準をほぼ100%達成し継続している。しかし、光化学オキシダントの環境基準の達成率は依然として0%の状態が続いており、光化学スモッグ注意報の発令日数は全国でも常に上位であることから埼玉県における重要な課題となっている。また、微小粒子状物質(PM_{2.5})については、測定局を年々増やして監視を続けているが、その環境基準達成率は、平成23年度から25年度にかけて0%、50%、12%(測定局数は6局、12局、25局)と上昇・低下している状況で、今後一層の濃度低減が求められている。このほか、長期的暴露による健康影響という観点から、様々な大気中の有害化学物質も注目されている。

大気環境担当の主な活動は、埼玉県というフィールドを対象に環境モニタリングを行い、様々な大気汚染物質について現況把握、特性解析、行政施策効果の評価を行うことである。このほか環境制御という観点から、大気汚染物質の新規除去装置の開発、既存の排出低減策の整理とその効果の評価も対象となる。

埼玉県5か年計画(安心・成長・自立自尊の埼玉へ)と環境基本計画に掲げる大気環境保全施策の指標として、光化学スモッグの原因物質である揮発性有機化合物の排出量削減が設定されている。これは、この取組によって、光化学オキシダントやそれに関連して増加する微小粒子状物質の低減を目指すものである。このような状況の下、大気環境担当では、光化学大気汚染を重点的な対象として取り上げ、独自の自主研究課題、あるいは環境部大気環境課等と連携した行政令達課題として、その原因物質である揮発性有機化合物や窒素酸化物の排出削減及び環境動態、生成物質であるオゾンや微小粒子状物質の環境動態を総合的に調査研究している。広域大気環境に関しては、酸性雨の構成化学成分の動態解析を続けている。ま

た、環境基本計画に掲げられている重点取組施策である石綿の飛散防止に関しても、新たな汚染を引き起こさないための監視という面で行政を支援している。このほか、行政令達課題として、有害大気汚染物質、各種化学物質等のモニタリングを行うとともに、県や市町村の行政現場での案件解決のための支援を行っている。これらの研究遂行のため、国立環境研究所、早稲田大学、北海道大学ほか多くの大学、近隣の地方環境研究所、民間企業等と連携している。

(3)自然環境担当

人類は、自然から多くの恵みを受け取り、生存している。大気中の酸素はもちろん、豊かな海や土壌、人間の食料もそのほとんどが自然からの恵みによるものである。近年、環境汚染や温暖化、開発などの様々な要因により自然環境が劣化し、自然からの恵みを支える生物多様性が失われつつある。このような状況下で、人類が生命を維持し存続するためには、生物多様性を保全するとともに、自然との共生を図ることが必要不可欠なことでとされている。特に首都圏にある埼玉県では都市化が進みつつあり、自然との共生は重要な課題である。

自然環境担当では、環境基本計画に掲げられている「生物多様性に富んだ自然共生社会の形成」を目指し、みどり自然課や大気環境課等と連携し、主に3つの側面（「希少野生生物の保全に関する調査・研究」、「環境ストレスによる植物影響研究」及び「自然環境データベースの構築と運用」）から自主研究や外部資金研究、行政令達事業等を進めている。

平成26年度は、自主研究課題として、「光化学オキシダントの高濃度化と温暖化の進行が埼玉県の水稲に及ぼす単独および複合的な影響の評価」や「資源植物による汚染土壌の修復効果にみられる品種間の差の評価」といった環境ストレスによる植物影響に関連する研究とともに、「自然環境データベースのGISによる構築・運用－森林変遷の把握と温暖化緩和機能の評価－」といった研究にも取り組んだ。

外部資金研究としては、環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」の中で、法政大学が中心となって進めてきた「地域社会における温暖化影響の総合的評価と適応策に関する研究」、及び農業環境技術研究所が中心となって進めてきた「不確実性を考慮した農業影響及び適応策の評価」に参画し、主に農作物に対する温暖化の影響に関して研究を推進した。また、日本学術振興会科学研究費助成事業として、「高濃度二酸化炭素環境下におけるオゾンが水稲に及ぼす影響とその品種間差の要因解明」を実施するとともに、科学研究費助成事業を通じた国際共同研究にも取り組んだ。さらに、他機関との連携では、国立環境研究所とのⅡ型共同研究「植物のストレス診断と環境モニタリングに関する研究」を実施した。

行政令達事業では、みどり自然課が所管する事業として、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」による指定種（ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ、ソボツチスガリ、アカハライモリ）を保全する「希少野生生物保護事業」、奥秩父雁坂峠付近の亜高山帯森林における気象観測モニタリングとシカの食害調査等を実施する「野生生物保護事業」、緑化による温度低減効果を調査する「身近なみどり重点創出事業」等に取り組んだ。また、大気環境課が所管する事業として、光化学スモッグによる植物影響を調査する「大気汚染常時監視運営管理事業」に取り組んだ。

自然環境担当では、調査・研究事業や行政令達事業のみならず、環境学習関連の用務にも積極的に取り組み、県民参加の自然環境調査や小学校での総合学習の支援、出前講座や動植物観察会の講師等も行った。また、中国を対象とした国際貢献事業を支援するとともに、「世界に通用する研究者育成事業」で、研究員1名をオーストラリアのウェスタンシドニー大学ホークスベリー環境研究所に研修派遣した。

(4)資源循環・廃棄物担当

資源循環・廃棄物担当では、産業廃棄物及び一般廃棄物について国や埼玉県が推進する循環型社会形成に向けた施策を支援するとともに、埼玉県が直面する廃棄物の諸問題を解決するための調査・研究を実施している。

行政令達業務は、廃棄物の排出、中間処理、最終処分の適正化、再資源化の推進に必要な技術支援を行うとともに、不法投棄等の不適正処理に伴う環境保全上の支障の除去あるいは低減化を、産業廃棄物指導課、資源循環推進課、環境整備センター及び各環境管理事務所と連携を図りながら行っている。最終処分場の管理に関する業務、産業廃棄物の山についての調査・対策、一般廃棄物の不燃ごみ・粗大ごみの適正処理の検討を継続しており、不法投棄関連では建設廃棄物不法投棄現場の調査などの事案への対応を行い、アルミ残灰等放置現場における安全な管理方法の検討など必要な技術的支援を行った。

研究業務としては、廃棄物の焼却処理や破碎選別処理、リサイクル、そして埋立処分について安全・安心、さらには地球温暖化防止対策が求められており、そのための調査・研究を継続している。最近では、今後も排出量の増加が予想されるアスベストに関して、将来的な健康被害防止の観点から研究を行っている。最終処分関連では、埋立地から漏出する可能性の高い化学物質を安全で安心に処理するための埋立資材の開発やリサイクルの推進に伴い質の変化しつつある埋立廃棄物に対応

する埋立技術に関する研究などを行ってきた。近年は廃棄物処理技術、再資源化についても地球温暖化対策の視点も加え、埼玉県の地域性を考慮して調査・研究を行っている。また、不法投棄等による生活環境保全上の支障や廃棄物の除去方法、さらに有害物質の汚染範囲や有害ガス、温暖化ガスの発生状況を現場で迅速に判定するための技術開発を積極的に行っている。

これらの研究の一部を文部科学省や環境省からの外部資金により行っており、「プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究」を継続するとともに、「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」、「地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスのガス化／多段触媒変換プロセスの開発に関する研究」等多岐にわたる研究事業を国立環境研究所・大学等と共同で実施した。

さらに、JSTとJICAの共同事業である地球規模の環境問題課題の解決に資する研究(SATREPS)「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」では、研究だけでなく国際貢献として、日本側研究機関だけでなく、相手国の大学、研究所、官庁等とも連携して研究を進めている。

(5) 化学物質担当

埼玉県環境基本計画では、「環境負荷の少ない安心・安全な循環型社会づくり」に係る施策の一つに「化学物質対策の推進」を掲げており、化学物質の適正管理による環境リスクの低減、化学物質に関する正しい情報共有・相互理解の推進を目的としている。化学物質担当では、化学物質対策に関する行政的方向性を踏まえ、ダイオキシン類や内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)などの化学物質に関する情報収集、環境濃度レベルの把握、計測技術や処理技術の改良・開発に関する調査研究を実施している。近年、残留性の高い化学物質や未規制の有害化学物質による環境汚染が懸念されている。これまでは、微量有害化学物質や新たに注目される環境汚染物質に関する分析方法の開発・改善、及び環境モニタリングを中心に調査・研究を行ってきたが、今後は化学物質の環境動態・汚染機構の解明、環境リスク評価なども積極的に実施する必要がある。

自主研究事業は、①環境残留性や生物蓄積性が懸念されている環状シロキサン類の発生源・環境汚染レベル等を把握し、環境影響評価に資するため「環状シロキサン類の分析法開発と環境汚染実態解明」、②河川水中のネオニコチノイド系殺虫剤濃度の長期的な増減傾向と検出地域の拡大縮小傾向及び農業活動や気象条件との関連性を把握するため「河川水中ネオニコチノイド系殺虫剤濃度の年間変動」、③有機ハロゲン難燃剤(ヘキサブromクロドデカン、デクロランプラス)による県内の大気、水、底質の環境汚染実態を把握するため「県内における有機ハロゲン難燃剤の汚染実態の把握」を実施した。外部研究費による代表研究としては、「低分子ポリジメチルシロキサン類の高精度分析法開発と環境汚染実態の解明」、「水環境におけるPFOS、PFOAの前駆物質の生分解挙動に関する研究」を実施した。また、外部研究費による分担研究として、(独)国立環境研究所や地方自治体の環境研究機関などと連携し、「精密質量データ解析法の開発と環境化学物質モニタリングへの応用」、「河川生態系への影響が心配な神経毒性農薬の汚染実態と水生昆虫による生態影響試験開発」を進めた。

行政令達事業は、環境監視業務として、古綾瀬川のダイオキシン類汚染対策事業に係る流入水路のダイオキシン類濃度調査、ダイオキシン類環境調査(大気、土壌)、及び工業団地周辺における大気中揮発性有機化学物質等の調査を行った。法規制業務としては、ダイオキシン類発生源調査(排出水、排ガス、ばいじん等)を行った。また、野鳥の不審死の原因を調べるため、農薬などの分析検査も実施した。さらに、環境部各課や各環境管理事務所が委託した民間分析業者によるダイオキシン類の行政検査結果について、書類精査や立ち入り調査などによる品質管理を行った。

環境国際貢献では、タイ国環境研究研修センターダイオキシン研究所職員に対して大気中のダイオキシン類の分析測定技術を指導した。また、セルビア・ベオグラード大学教員に対して、JICA草の根技術協力事業(地域経済活性化特別枠)「セルビア国の残留性有機汚染物質の分析体制強化・排出削減対策プロジェクト」に係る残留性有機塩素化合物等の分析手法並びに環境中での評価方法に関する研修を実施した。環状シロキサン類の分析法の国際標準化を目指すため、関連する工業会と協調し、ISO国際会議で新規格を提案した。

(6) 水環境担当

埼玉県は、県の面積の約3.9%を河川が占めており、その割合は都道府県の中で1位であることから、県民誰もが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」を実現するための事業を展開している。河川環境については、かつて問題であった水質汚濁は大幅に改善され、有機汚濁の指標であるBODから見た環境基準達成率は概ね90%付近で推移していて、全国レベルまで達している。一方、平成24年度に見直し策定された「埼玉県環境基本計画」では、長期的な目標として「再生したみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり」が設定され、平成28年度までの施策指標として、公共用水域ではアユが棲める水質(BOD 3mg/L以下)の河川の割合が90%、綾瀬川・中川水質ランキングのワースト脱却が示された。

水環境担当では、行政の施策支援及び新たな水環境問題への対応を目標に調査研究に取り組んでいる。公共用水域で

は、河川の水質調査を継続して実施しており、平成26年度は中川で亜鉛の水質基準の超過が観測され、その原因究明のための追跡調査を行った。その結果、ある工場からの排水の影響であることが推察された。工場・事業場の排水水については、一部試料を委託業者とクロスチェック分析を行うことで結果の信頼性を担保している。また、例年行っている県内の計量証明事業者等を対象にした精度管理事業について、平成26年度は同一の標準試料を一斉に分析する形式では実施しなかったものの、これまでの実施結果を精査することにより精度管理の重要性に関する講習会を開催した。中川の水質汚染防止に関する取組として、平成26年度は下水処理場からの排水の影響を調査したところ、アンモニア性窒素の酸化反応がBODに関与しており、BOD対策としてアンモニア性窒素の削減が重要であることを示した。

研究事業では、水環境の汚濁特性に関する研究として、河川での内部生産現象の実態解明と影響評価、中小河川・水路における水生生物の生息環境の評価手法の検討、浮遊細菌叢からの新たな汚濁指標の開発を実施した。水環境の修復及び水処理技術に関する研究として、下水処理プロセスにおけるN₂O生成ポテンシャル評価などを行った。これらの研究を推進するために、大学、企業、地方環境研究所と連携するほか、外部競争的資金への応募を積極的に行い、科研費等を獲得する実績を上げている。研究成果は国内及び海外での学会発表や学術誌等で公表している。また、国際貢献活動では、中国環境技術セミナーに研究員を派遣し、排水処理技術に関する講義指導を行ったほか、平成25年度から開始した山西省水環境保全モデル事業である晋城市の沁河及び丹河を対象に水質浄化及び生態系保全に関する共同プロジェクトを実施した。

(7) 土壌・地下水・地盤担当

土壌・地下水・地盤担当が所掌する業務内容は、①地質地盤情報の整備と情報提供、②土壌・地下水汚染の未然防止と地下水常時監視事業の技術的支援、③地中熱利用システムのための地下環境情報整備、④物理探査を利用した地下構造調査手法の確立、⑤騒音振動公害に関する調査などに分けることができる。このうち、②については水環境課土壌・地盤環境担当、③については環境政策課エネルギー・放射線担当や産業労働部産業支援課担当、そして⑤については水環境課及び市町村と連携して、行政課題の解決に役立つ研究や技術情報の提供などを実施している。

担当としての目標は、まず第一に、県内各地域の自然由来の環境問題の地域特性と汚染メカニズムを把握すること、さらには地盤変動と地下水利用との相互関係などを解析し、新しい環境監視を実現するための方法論を確立することである。そして、第二に、地中熱エネルギー賦存量、現有技術、最新技術、経済性及び自然や社会への影響評価等から、本県の地中熱利用エネルギーのポテンシャルを解析し、普及に役立つ情報を一般向けに提供することである。外部機関との連携活動としては、産業技術総合研究所、秋田大学、東京大学と地下水や地下熱に関する研究を共同で実施している。一方、外部資金活用については、科学研究費補助金による助成を受けた研究課題として、「地質地下水統合型地下環境情報システムの構築とそれを活用した地下水の最適管理」、「鉄酸化物分別溶解法を用いた土壌から地下水への砒素溶出メカニズム解析手法の開発」、そして「関東平野における地下熱汚染の把握と将来予測」などを実施している。

今年度においては、埼玉県における地下水質特性、海成堆積物の風化メカニズム、そして地中熱システムのための熱応答試験装置の開発などに関する自主研究業務、並びに地下水常時監視、土壌・地下水汚染防止、そして騒音・振動の防止に関する行政令達業務に取り組んだ。

(8) 環境放射能担当

平成23年(2011年)3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質は、プルームとして大気中を移動し、降雨等により、土壌、水、植物、建物を汚染した。その影響は、約200km離れた本県にも及び、三郷市、吉川市が放射性物質汚染対処特措法の汚染状況重点調査地域に指定された。県では、環境基本計画に“放射性物質による環境汚染への対応”を盛り込み、放射性物質の測定や放射線量の低減を優先的に取り組むべき課題として位置づけた。環境部では、放射線の監視体制を強化するため、空間放射線量を監視するモニタリングポストを6ヶ所に設置して24時間連続測定している。また、サーベイメーターによる校庭等県内24ヶ所の空間放射線量を測定しているほか、ゲルマニウム半導体検出器による各種環境試料のガンマ線放出核種測定を行っている。

環境科学国際センターでは、「放射性物質による汚染状況の把握等に関する研究」を研究所中期計画の重点課題に対応する特定研究の1つに位置づけている。平成24年3月にゲルマニウム半導体検出器を整備し、平成24年度から担当職員1名の暫定配置を得て、環境試料の放射性核種分析を開始した。放射能の監視業務は、当初、土壌・地下水・地盤担当の所掌として開始したが、平成25年度から環境放射能担当として独立した組織が担当することとなり、担当職員1名と兼務職員2名及び非常勤嘱託職員1名による体制で対応している。

平成26年度に実施した業務は、県単独の事業として、公共用水域環境基準点の水質及び底質(各6地点)、環境科学国際センター生態園の土壌(3地点、表層下0-5cm及び5-20cm)及び底質(1地点)の各試料について、ゲルマニウム半導体検出

器を用いた核種測定を行った。また、原子力規制庁の委託事業として、大気浮遊じん(1地点、毎月3回、3ヶ月分をまとめて1検体)、土壌(1地点、表層下0-5cm及び5-20cm)について、ゲルマニウム半導体検出器を用いて核種測定したほか、分析比較試料(模擬土壌、模擬牛乳、寒天)による機器校正に参加した。さらに、「生態圏をモデルとした放射性物質の分布及び移行に関する研究」を開始し、当所生態圏における土壌、昆虫、植物など放射性物質の移動に関与すると考えられる各種媒体ごとの濃度把握を行った。

5.2 試験研究事業

5.2.1 自主研究

(18課題)

テーマ名・期間	目的	担当者	概要
自然環境データベースのGISによる構築・運用－森林変遷の把握と温暖化緩和機能の評価－ (平成25～27年度)	埼玉県を対象とした地理情報システム(GIS)による自然環境データベースのさらなる充実を図るとともに、構築したGISデータベースを用い、埼玉県の詳細な森林の実態や変遷を把握する。また、森林等の温暖化緩和機能を評価する。	嶋田知英 三輪誠	167頁
微小有機成分分子の一次排出および二次生成の寄与割合推定に関する基礎的研究 (平成23～26年度)	微小粒子状物質(PM _{2.5})のバイオマス燃焼起源や二次生成の指標となる有機成分を測定し、大気中での動態を明らかにするとともに、一次排出及び二次生成の寄与割合を適切に推定するための手法検討やデータ収集などの基礎的な研究を行う。	長谷川就一 米持真一 梅沢夏実 松本利恵 佐坂公規	168頁
微小エアロゾルの通年観測試料を活用した各種大気イベントの解析 (平成24～26年度)	当センターでは全国的にも事例の少ない日単位のPM _{2.5} の通年測定を2009年4月から継続しているが、同時に、週単位のPM _{2.5} およびPM ₁ の通年測定も実施している。本課題では、これら試料を活用して、高濃度事例や越境大気汚染などの各種大気汚染イベントを評価する。	米持真一 梅沢夏実 長谷川就一 松本利恵	169頁
光化学反応によるBVOC由来生成物の測定手法の構築と埼玉県における現況把握 (平成25～27年度)	微小粒子状物質(PM _{2.5})の原因物質の一つである揮発性有機化合物(VOC)のうち、植物由来のVOC(BVOC)の動態やPM _{2.5} 生成への寄与はまだ十分に把握されていない。そこで、BVOCの光化学反応により生成するPM _{2.5} 中の指標化合物について測定・分析手法を構築し、本県における現況を把握する。	佐坂公規 梅沢夏実 松本利恵 米持真一 長谷川就一 野尻喜好	170頁
資源植物による汚染土壌の修復効果にみられる品種間の差の評価 (平成25～28年度)	汚染土壌の修復技術として注目されるファイトレメディエーションでは専用植物が使用されてきた。本研究では、専用植物の代わりに、トウモロコシ、ヒマワリ、大豆を中心としたバイオ燃料等として利用可能な資源植物を活用することとし、その修復効率の違いを評価する。品種毎に栽培試験を行うことにより、環境修復に最適な品種を選定することを目的とする。	王効挙 米持真一 磯部友護 細野繁雄 三輪誠 米倉哲志 金澤光	171頁
光化学オキシダントの高濃度化と温暖化の進行が埼玉県の水稲等に及ぼす単独および複合的な影響の評価 (平成26～28年度)	大気中の二酸化炭素が高濃度化した環境下において、光化学オキシダントの主成分であるオゾンの水稲の収量に及ぼす影響が変化するかを明らかにし、クリティカルレベルの評価を行う。	米倉哲志 王効挙 嶋田知英 三輪誠	172頁
河川水中ネオニコチノイド系殺虫剤濃度の年間変動 (平成26～28年度)	河川水中のネオニコチノイド系殺虫剤濃度の長期的な増減傾向と検出地域の拡大縮小傾向及び農業活動や気象条件との関連性を把握する。本研究では、ネオニコチノイド系殺虫剤と同様に生態系への影響が懸念されるフィプロニルとスルホキサフロルも新たに測定対象とした。	大塚宜寿 野尻喜好 蓑毛康太郎 茂木守 堀井勇一	173頁
環状シロキサンの分析法開発と環境汚染実態解明 (平成24～26年度)	環境残留性・生物蓄積性の懸念される環状シロキサンについて、環境試料の分析法検討、下水処理施設等の発生源調査、周辺河川の濃度分布調査を行うことで環境動態に関する知見を集約し、環状シロキサンの環境影響評価に貢献する。	堀井勇一 茂木守 大塚宜寿 蓑毛康太郎 野尻喜好	174頁

テーマ名・期間	目 的	担 当 者	概要
県内における有機ハロゲン難燃剤の汚染実態の把握 (平成26～29年度)	有機ハロゲン難燃剤(ヘキサプロモシクロドデカン、デクロランプラス)による県内の大気、水、底質の環境汚染実態を把握する。	茂木守 蓑毛康太郎 大塚宜寿 堀井勇一 野尻喜好	175頁
中小河川・水路における水生生物の生息環境の評価手法の検討 (平成25～26年度)	主に大里用水の水路網に焦点を当て、河川環境・水質・生息生物等の調査に基づき、水生生物の生息環境を整理・解析し、カルテのような形によるその評価手法を検討する。	木持謙 田中仁志 金澤光	176頁
下水処理プロセスにおけるN ₂ O生成ポテンシャルの評価 (平成24～26年度)	県内の下水処理施設を対象とし、N ₂ O生成に関連する代謝速度を実験的に測定することにより、下水処理プロセスからのN ₂ O生成のポテンシャルを評価し、温室効果ガス排出抑制条件を明らかにすることを目的とする。	見島伊織	177頁
県内河川における内部生産現象の実態解明と水質汚濁影響評価 (平成24～26年度)	県内で河川形態や水質が異なる上流域及び中流停滞性水域を対象に、内部生産の実態を把握するとともに、生産を支配する因子を明らかにして有機汚濁の観点から環境影響を評価する。	池田和弘 柿本貴志 見島伊織 渡邊圭司	178頁
浮遊細菌の構成種から見た埼玉県内河川の水質特性評価 (平成26～28年度)	浮遊細菌の構成種は、物理化学的な環境パラメーターに敏感に反応し、その組成が変化するため、新たな河川水質特性評価指標としてその有効性が期待できる。本研究では、河川における浮遊細菌の構成種の把握および河川水質特性との関連性を明らかにし、新たな水質指標としての可能性を探る。	渡邊圭司 池田和弘 柿本貴志 見島伊織 高橋基之	179頁
埼玉県における地下水質特性の総合評価とその応用に関する研究 (平成23～26年度)	県内各地域の地下水質を測定し、地理情報システム上で地質情報とともに解析することにより実際に汚染されている帯水層レベルを把握し、汚染拡散の未然防止を図るなど環境行政が抱える地下水課題の解決を試みる。	八戸昭一 石山高 濱元栄起 白石英孝	180頁
海成堆積物の風化メカニズムと土壌汚染リスク管理に向けた検討 (平成24～26年度)	海成堆積物は一定期間大気中で放置されると、硫化鉱物の風化により酸性土壌へと変化し、様々な有害重金属類が溶出する。本研究では、硫化鉱物の風化過程と土壌pHの変化について解析し、この結果を基に海成堆積物の土壌汚染リスク管理手法を検討する。	石山高 八戸昭一 濱元栄起 白石英孝 細野繁雄	181頁
土壌中における有害重金属の存在形態と植物への移行状況の解析 (平成24～26年度)	土壌汚染が発生した場合、土壌を介して有害物質が植物へと移行する可能性が懸念される。植物への移行特性を解析するには、有害物質の溶出形態や土壌中での存在形態の把握が不可欠である。本研究では、中国農用地汚染土壌を用いて、重金属類の溶出形態と存在形態を分析する。	石山高 八戸昭一 濱元栄起 白石英孝 細野繁雄	182頁
地中熱利用のための地下熱環境評価手法と熱応答試験装置の開発 (平成24～26年度)	本研究は、再生可能エネルギーのひとつとして期待されている地中熱エネルギーに着目し、設計や施工に役立つ情報の整備を行うことを目的としている。特に、熱の採りやすさを事前に把握できる「熱応答試験」について研究し、数値実験や現場での実験を通じて、埼玉県の地下環境に適した試験方法等の検討を行う。	濱元栄起 八戸昭一 白石英孝 石山高 佐竹健太	183頁
生態圏をモデルとした放射性物質の分布及び移行に関する研究 (平成26～28年度)	東日本大震災に伴う原子力発電所事故によって大気中に放出された放射性物質は、本県にも影響を及ぼした。そこで本研究では、環境中での放射性物質の分布、輸送、蓄積等の実態把握を目的に、当所の生態圏をモデルとして、土壌、植物など各種環境媒体中の放射性物質濃度の調査を実施する。また将来的には、集積データを解析して、放射性物質の環境動態の解明を試みる。	佐竹健太 米持真一 白石英孝 小林良夫 嶋田知英 三輪誠 細野繁雄	184頁

5.2.2 外部資金による研究事業

(27課題)

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
環境省 環境研究総合推進費 (平成22～26年度) 研究分担代表:法政大学 その他連携先:東京都環境科学研究所、長野県環境保全研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(S-8-2(1)④-2)―埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究―」 地域における温暖化対策を推進するためには地域の脆弱性を考慮した戦略が必要となる。しかし、現在、温暖化影響すら十分把握されていない。そこで、特に温暖化適応策を推進するため、地域性が高い農作物に注目し、温暖化による地域農作物への影響評価を検討する。また、埼玉県における温暖化影響の実態把握のための情報収集等を行う。	嶋田知英 米倉哲志 三輪誠 竹内庸夫	185頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成22～26年度) 研究分担代表:(独)農業環境技術研究所 その他連携先:(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(S-8-1(6)③)―不確実性を考慮した農業影響および適応策の評価―」 日本全国を対象として、米および米以外の作物への温暖化影響評価および影響軽減のための適応策とその効果を予測の不確実性を考慮に入れて広域的に評価する。当センターは主として予測の不確実性を考慮に入れた影響評価および不確実性低減手法の開発を行う。	米倉哲志 三輪誠 嶋田知英	185頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成24～26年度) 研究代表:岡山大学 その他連携先:名古屋大学	「地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスのガス化/多段触媒変換プロセスの開発に関する研究」 廃棄物系バイオマスをガス化後触媒改質し、生成するH ₂ 、CO、CO ₂ 等含有ガスに対し異なる温度範囲でさらに触媒を用いて質変換し、付加価値のあるCH ₄ およびCOを高効率に回収するガス化/多段触媒変換プロセスを開発する。さらに、これらの開発要素技術を実際の地域に適用するシミュレーションを通じて、総合システムの最適な導入条件と成果を提示する。	鈴木和将	186頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成25～27年度) 研究代表:(公財)産業廃棄物処理事業振興財団 その他連携先:九州大学、京都大学、長崎大学、長野県立短期大学、前田建設工業(株)	「プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究」 プラスチック等が混入した廃棄物地盤の力学特性や環境特性を明らかにし、その評価法を提案し、適切かつ経済的な廃棄物地盤の利用及び構築(例えば発電風車等)の可能性について検討することを目的とする。	川寄幹生	186頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成24～26年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「低分子ポリジメチルシロキサンの高精度分析法開発と環境汚染実態の解明」 本研究では、低分子シロキサンの中でも国際的に優先してリスク評価が取り組まれている環状及び鎖状の4～6量体を中心に、まず、公定法提案を目指した高精度分析法開発を行う。次にこの確立した分析法をもとに発生源データの整備、環境中への排出状況把握、環境動態解析を行う。	堀井勇一 (代表) 蓑毛康太郎	187頁
厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金 (平成25～26年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:早稲田大学理工学術院、(公財)労働科学研究所	「作業実態に応じた効果的なVOC発散防止・抑制方法に関する調査研究」 省令改正に伴う、作業現場における局所排気以外の方法による発散防止・抑制方法の導入の可能性について、英国における情報収集および国内への適用性について検討するとともに、独自の手法を開発する。	米持真一 (代表) 梅沢夏実	187頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成24～26年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:中国・上海大学、中国環境科学研究院	「磁気分離法を利用した微小粒子中金属の化合形態の解明」 自ら開発した、磁氣的性質を利用して粒子状物質中に含まれる金属元素成分の分離法を応用し、PM1中に含まれる金属元素成分の化合形態の解明を試みる。また中国国内においても試料採取を行い、本手法を適用することで、越境汚染の新たな評価手法を開発する。	米持真一 (代表) 梅沢夏実 王効挙	188頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成25～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:北海道大学、北海道立総合研究機構環境科学研究センター、ほか8機関	「広域測定網における大気汚染測定フィルターの再利用による光学的黒色炭素粒子の測定」 地方自治体の既存の観測網で用いられた分析済の大気汚染測定フィルターを測定試料として再利用し、近年開発された光学的測定法により黒色炭素(ブラックカーボン:BC)濃度を測定する。この方法により、新たな機材や多くの労力を使わずに、全国のBCの挙動を明らかにする。	松本利恵 (代表)	188頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(一部基金) (平成25～27年度) 研究代表:秋田大学 その他連携先:日本大学、インドネシア国立ガジャマダ大学	「東南アジアにおける水銀利用による環境汚染の回復と持続的産業発展に関する研究」 インドネシアなどの多くの開発途上国では、小規模金採掘場に使われている水銀による土壌や河川の水銀汚染が深刻化している。本研究では、インドネシアの小規模金採掘地域に対して、水銀汚染環境からの回復と健康被害の回避対策・地域産業発展という2側面のアプローチから現地研究調査を行う。	王効挙	189頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成24～26年度) 研究代表:滋賀県琵琶湖環境科学研究センター その他連携先:神戸大学、滋賀県立大学、兵庫県立大学	「湖沼に蓄積する難分解性溶存有機物の藻類影響評価試験法の開発」 湖沼において環境基準達成を困難にしている一因として蓄積性難分解性溶存有機物の増加が疑われている。本研究では、それら溶存有機物が増加した場合に起こる将来的な生態系への影響を把握するために、藻類に対する影響評価手法を開発する。	田中仁志	189頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(一部基金) (平成25～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:富山大学、東北大学、氷見市教育委員会、(独)国立環境研究所	「稀少淡水二枚貝のイシガイ類保全のための人工増殖に向けた餌資源の解明」 淡水二枚貝イシガイ類はタナゴ類の産卵母貝として知られるが、県内のみならず、全国的に絶滅が危惧されている。イシガイ類の保全のために、餌資源を明らかにして人工増殖の技術を確立する。	田中仁志 (代表)	190頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成25～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「放射光鉄形態解析を利用した鉄電解型浄化槽におけるリン除去の制御」 小規模分散型の小型浄化槽においては鉄電解法を組み込んだリン除去型が普及しつつあるが、そのリン除去機構の詳細は明らかではない。本研究では、放射光を応用した測定を用い、リンと結合する鉄の形態を測定し、リン除去機構を明らかにする。さらに、検証実験やモデル解析からリン除去安定化の制御手法を確立することを目的とする。	見島伊織 (代表)	190頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成24～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「関東平野における地下熱汚染の把握と将来予測」 温暖化によって気温の上昇だけではなく地下の温度も上昇傾向にあることが分かってきた。本研究は、関東平野において地下水観測井を活用し、地下温暖度計測を実施することで、関東平野における地下の温暖化の程度を明らかにすることを目的とする。	濱元栄起 (代表)	191頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成25～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「鉄酸化物分別溶解法を用いた土壌から地下水への砒素溶出メカニズム解析手法の開発」 砒素による地下水汚染は、日本をはじめ世界各地で大きな環境問題となっている。汚染対策を適切に実施するためには、汚染メカニズムの解明が不可欠である。本研究では、鉄酸化物分別溶解法を適用した簡便迅速な砒素溶出メカニズム解析手法を開発する。	石山高 (代表) 八戸昭一 濱元栄起	191頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(一部基金) (平成26～30年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「地質地下水統合型地下環境情報システムの構築とそれを活用した地下水の最適管理」 地質や地下水情報を対象とした統合型データベースやリモートセンシング技術などを援用することにより、地盤沈下や自然地層に由来する地下水汚染など地盤内部で発生する諸問題を軽減化させるための効果的な地下水管理手法を検討する。	八戸昭一 (代表) 石山高 濱元栄起 柿本貴志 白石英孝	192頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成26～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「水環境におけるPFOS、PFOAの前駆物質の生分解挙動に関する研究」 生物に対する有害性が指摘されている難分解性物質、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)による河川水の汚染原因を解明するとともに、それらの前駆物質による環境汚染実態とその汚染機構を解明する。	茂木守 (代表) 野尻喜好 堀井勇一	192頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成26～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:茨城大学	「高濃度二酸化炭素環境下におけるオゾンが水稻に及ぼす影響とその品種間差の要因解明」 大気中オゾンや二酸化炭素の影響の異なる水稻品種や現在育種している新品種を対象に、収量等に対する大気中オゾンと二酸化炭素の単独及び複合的影響を調べ、高濃度二酸化炭素下で大気中オゾンの影響が変化するかを明らかにするとともに、品種間差異が起こる要因を調べ、影響メカニズムの解明を目指す。	米倉哲志 (代表)	193頁
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (平成26～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:大阪府立環境農林水産総合研究所	「河川生態系への影響が心配な神経毒性農薬の汚染実態と水生昆虫による生態影響試験開発」 神経伝達を阻害するネオニコチノイド系殺虫剤は多くの害虫の防除に効果があり、近年、使用量が増えている。水移行後の環境濃度は情報不足であり、河川生態系における餌生物として重要な水生昆虫に対する影響が心配される。本研究はネオニコチノイド系殺虫剤を対象にした河川汚染実態把握及び水生昆虫による生物検定法の開発を目的としている。	田中仁志 (代表) 大塚宜寿	193頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
<p>(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (平成26～28年度) 研究代表:(独) 国立環境研究所 その他連携先: 統計数理研究所、大阪市立環境科学研究所、広島県総合技術研究所保健環境センター</p>	<p>「精密質量データ解析法の開発と環境化学物質モニタリングへの応用」 ガスクロマトグラフ-高分解能飛行時間型質量分析計の環境分野への活用の高度化を図り、研究分野の開拓にも繋がる手法の開発を目指す。本装置の能力を最大限活用した物質の検索・同定が可能な高精度の網羅的分析法、物質組成や量の変化を高感度に検出・識別できる精密質量データの解析法を提案し、測定データからの物質の発掘や検索・同定において精密質量データを用いることの優位性を明らかにする。</p>	大塚宜寿	194頁
<p>(独) 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(CREST) (平成21～26年度) 研究代表: 高知大学 その他連携先: 北海道大学、(独) 国立環境研究所、岡山大学、京都大学、鳥取大学、愛媛大学</p>	<p>「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」サブテーマ4「面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価」 全体研究は以下の研究からなる。(1)資源創出とN₂O排出抑制を同時に実現する面的植物浄化・水再生システムの構築、(2)農業地域に適した分散型水・資源再生システムの開発、(3)農業地域における水・バイオマス資源のカスケード型循環利用システムの構築、(4)面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価。本機関は、他機関と協力し、本全体研究で開発する(1)～(3)の諸技術から構成する全システムの環境負荷、経済等の全体評価を分担研究する。</p>	長谷隆仁	194頁
<p>(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成22～27年度) 研究代表: 愛媛大学 その他連携先: (独) 産業技術総合研究所、大阪府立大学、東京大学、(独) 国立環境研究所、三栄ハウス(株)、(一社) 海外環境協力センター、(株) 数理計画、メテオリサーチ(株)、メキシコ・国立環境・気候変動局</p>	<p>「オゾン、VOCs、PM_{2.5}生成機構の解明と対策シナリオ提言共同研究プロジェクト」 メキシコにおける大気中のオゾン、VOC、PM_{2.5}の生成メカニズムの解明や曝露量の把握を行い、大気汚染対策シナリオを提言する。そのため、オゾンやPM_{2.5}の環境動態を日本とメキシコを中心に解明し、二国間に共通する側面や地域独自の特徴を把握する。これを基にメキシコにおけるオゾン、VOC、PM_{2.5}の生成メカニズムを明らかにする。</p>	長谷川就一	195頁
<p>(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成23～27年度) 研究代表: 埼玉大学 その他連携先: 早稲田大学、(独) 産業技術総合研究所、ペラデニヤ大学、ルフナ大学、キャンディ基礎研究所、全国廃棄物管理支援センター、中央環境庁</p>	<p>「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」 持続可能な低コスト・低メンテナンス・低環境負荷の環境汚染防止技術や廃棄物処分場修復技術の開発・導入により、スリランカ国の廃棄物問題解決への貢献を目指す。</p>	長森正尚 渡辺洋一 磯部友護	195頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
<p>(一財)日本自動車研究所委託研究費 (平成26年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「大気環境の改善とバイオマス由来粒子の季節変化に関する調査研究」 近年、国内における微小粒子状物質(PM_{2.5})濃度は低下傾向にある一方で、バイオマス由来炭素粒子の相対的寄与の増加が指摘されている。本課題では、環境科学国際センターをフィールドとして、採取したPM_{2.5}に含まれるバイオマス由来二次生成粒子の指標化合物について組成分析を行い、それらのPM_{2.5}に対する季節別寄与を検討する。</p>	<p>坂本和彦 (代表) 佐坂公規</p>	196頁
<p>韓国済州緑色環境支援センター研究基金 (平成25～26年度) 研究代表:韓国済州大学校</p>	<p>「済州地域における微細粒子の排出源推定のための超微粒子状物質調査」 韓国済州島ハルラ山で、毎月2週間、PM_{2.5}およびPM₁の採取を行い、済州島における微小エアロゾルの実態を把握する。本試料採取は、夏季と冬季には、中国および日本国内と同期して行うことで、越境大気汚染について知見を得る。</p>	<p>米持真一 田中仁志 坂本和彦</p>	196頁
<p>(株)三菱総研 社会ニーズ(安全・安心)・国際幹事等排出分野に係る国際標準化活動 (平成26～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「揮発性環状メチルシロキサン分析法に関する国際標準化」 ポリジメチルシロキサン(いわゆるシリコン)は、耐熱・耐寒性、電気絶縁性、科学的安定性、撥水性をもつ化合物で、多くの産業分野で広く使用される高生産量化学物質である。最近の調査・研究では、一部揮発性環状メチルシロキサンの毒性や生物蓄積性が指摘されており、欧米では揮発性環状メチルシロキサンについて優先的に詳細科学物質リスク評価が進められている。しかしながら、精度管理の保証された公定分析法の不在から、揮発性環状メチルシロキサンの環境中への排出量や環境中濃度分布に関する情報は限られる現状にある。本事業では揮発性環状メチルシロキサンについて、水試料分析法の国際規格化を行う。</p>	<p>堀井勇一 (代表)</p>	197頁
<p>(公財)鉄鋼環境基金研究助成 (平成26～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「有機炭素分析を利用したPM_{2.5}の発生源寄与推定の高分解能化」 PM_{2.5}の炭素分析法として広く用いられている熱分離・光学補正法により得られるOC(有機炭素)フラクションを、発生源の指標として有効活用することで発生源寄与推定の高分解能化を図るため、既知物質の分析によるOCフラクションプロファイルの作成、OCフラクション別の有機成分分析を行い、これらを大気観測資料の発生源寄与推定に導入し、その有効性などを検証する。</p>	<p>長谷川就一 (代表)</p>	197頁
<p>(独)宇宙航空研究開発機構 第7回降水観測ミッション(PMM) 研究公募 (平成25～27年度) 研究代表:首都大学東京 その他連携先:(独)海洋研究開発機構、他2機関</p>	<p>「複数の降水量データを用いたアジアモンスーン域の各地域(インドシナ半島、海洋大陸など)での降水量変動の特徴の理解」 本研究では、複数のプロダクトの相互比較を行い、全球の降水量変動と大気水循環の変動を明らかにする。</p>	<p>原政之</p>	198頁

5. 2. 3 行政令達

(42件)

事業名	目的	担当	関係課	概要
ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050推進事業	県及び市町村温室効果ガスの排出量推計、CO ₂ 濃度の精密観測、県内各地の温度観測等を行い、埼玉県における温暖化実態把握や、温暖化対策効果の管理等を行う基礎的資料を得る。	温暖化対策担当	温暖化対策課	200頁
地理環境情報システム整備事業	環境保全施策策定に資するための基礎的な環境情報を地理情報システムとして整備するとともに、電子地図及び各種空間情報を県民に提供し、環境学習や環境保全活動を支援する。	温暖化対策担当	温暖化対策課	200頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(地球環境モニタリング調査)	地球環境問題に係る調査の一環として、大気中の原因物質の現況と傾向を継続的に把握し、対策効果の検証を行うための資料とする。	温暖化対策担当 大気環境担当	大気環境課	201頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(有害大気汚染物質調査)	有害大気汚染物質による健康被害を未然に防止するために、大気汚染の状況を監視するモニタリングを実施する。	大気環境担当	大気環境課	201頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(酸性雨調査)	大気降下物による汚染の実態とその影響を把握し、被害の未然防止を図るための基礎資料を得ることを目的とする。	大気環境担当	大気環境課	202頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(炭化水素類組成調査)	近年増加傾向である光化学オキシダントの発生要因を精査するために、原因物質である炭化水素類の地点別、時間帯別の成分濃度を把握する。	大気環境担当	大気環境課	202頁
大気汚染常時監視運営管理事業	埼玉県内のPM _{2.5} による汚染実態を把握するとともに、その成分も分析することで、PM _{2.5} の濃度低減を図るための基礎的なデータを得る。	大気環境担当	大気環境課	203頁
NO _x ・PM総量削減調査事業	関東広域におけるPM _{2.5} の成分を把握し、対策に役立てるとともに、交差点近傍のNO ₂ 、NO _x 濃度を測定し、実態を把握する。	大気環境担当	大気環境課	203頁
工場・事業場大気規制事業	工場、事業場から排出されるばい煙等による大気汚染を防止するため、固定発生源における窒素酸化物等の測定を行う。また、大気関係公害の苦情処理に必要な調査及び指導等を行う。	大気環境担当	大気環境課	204頁
大気環境石綿(アスベスト)対策事業	石綿による環境汚染を防止し、県民の健康を保護するとともに、生活環境を保全するための調査を行う。	大気環境担当	大気環境課	204頁
揮発性有機化合物対策事業	光化学オキシダントによる健康被害を防止するために原因物質である揮発性有機化合物(VOC)の大気への排出状況を把握し、排出削減のための事業者指導を行う。	大気環境担当	大気環境課	205頁
騒音・振動・悪臭防止対策事業	騒音、振動、悪臭に関する規制事務の適正な執行を図るため、苦情処理に必要な指導及び調査を実施する。	大気環境担当 土壌・地下水・地盤担当	水環境課	205頁
化学物質環境実態調査事業	一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルを把握する。	大気環境担当 化学物質担当 水環境担当	大気環境課 (環境省委託)	206頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
大気汚染常時監視運営管理事業(光化学オキシダント植物影響調査)	県内における光化学オキシダント(主としてオゾン)による植物被害の発生状況を把握するため、オゾンの指標植物であるアサガオを用いて、その被害の県内分布等を調査する。	自然環境担当	大気環境課	206頁
希少野生生物保護事業	「県内希少野生動植物種」に指定されているソボツチスガリ(ハチ目)、イモリ(両生類)について、生息地の継続的なモニタリングを実施する。また、ミヤマスカシユリ、サワトランノオ等について、個体の維持・増殖を行う。	自然環境担当 温暖化対策担当	みどり自然課	207頁
野生生物保護事業	野生生物保護に資するため、野生生物に関する各種情報をGISデータベースとして整備する。また、奥秩父雁坂峠付近の亜高山帯森林において気象観測を行うとともに、現在進行しているシカの食害の状況を経年的に調査・把握する。	自然環境担当	みどり自然課	207頁
身近なふる里みどり創造事業	県内の環境保全団体等による野生動植物のモニタリングデータを集約するとともに、活用法を検討する。	自然環境担当 温暖化対策担当	みどり自然課	208頁
身近なみどり重点創出事業	小学校の校庭の芝生化などの緑化が身近な熱環境に及ぼす影響を温度測定により評価する。	自然環境担当 温暖化対策担当	みどり自然課	208頁
元小山川水環境改善活動に係る魚類調査	元小山川において、河川生態系の現況を確認するため、魚類等の採捕調査により生息状況を把握する。	自然環境担当	本庄県土整備事務所	209頁
産業廃棄物排出事業者指導事業	最終処分場の埋立作業時及び埋立終了後における監視指導を強化し、廃棄物の適正処理・管理の推進並びに生活環境の保全に資する。また、家屋解体現場及び産業廃棄物中間処理施設等における廃棄物中のアスベスト分析を行い、行政指導の支援を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	209頁
廃棄物の山の撤去・環境保全対策事業	廃棄物の山が周辺に与える支障の有無について評価する。また、廃棄物の山の撤去等に必要な調査を実施するとともに周辺に影響を与える場合の支障軽減対策を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	210頁
廃棄物不法投棄特別監視対策事業	不法投棄された廃棄物の検査を実施し、生活環境への影響を評価するとともに支障を軽減・除去する。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	210頁
廃棄物処理施設検査監視指導事業	一般廃棄物処理施設(最終処分場及び焼却施設)の立入検査で採取した試料を分析するとともに、処理事業所等に対して現場調査を含む技術的なコンサルティングを行う。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	211頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業(埋立処分①イオン類、埋立処分②閉鎖)	埼玉県環境整備センターの浸出水、処理水、地下水の水質検査並びに埋立地ガスの検査により、適正な維持管理に資する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	211頁
循環型社会づくり推進事業	一般廃棄物不燃ごみ及び粗大ごみの適正処理について検討する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	212頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
新河岸川産業廃棄物処理対策事業	有機溶剤等を含む廃棄物が不法投棄された新河岸川河川敷で実施されている処理対策を支援する。	資源循環・廃棄物担当	河川砂防課	212頁
ダイオキシン類大気関係対策事業	ダイオキシン類による環境汚染の防止を図るため、ダイオキシン類対策特別措置法及び県生活環境保全条例に基く立入検査等に伴って採取した排ガス、ばいじん等の検査を実施する。	化学物質担当	大気環境課	213頁
工場・事業場水質規制事業(ダイオキシン類)	ダイオキシン類対策特別措置法等に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排水規制の徹底を図る。	化学物質担当	水環境課	213頁
土壌・地下水汚染対策事業(土壌のダイオキシン類調査)	大気に係るダイオキシン類の特定施設からの影響を監視するため、発生源周辺の土壌汚染状況調査、汚染の恐れがあると判断される土地に対する立入検査を行い、県民の健康被害の防止を図る。	化学物質担当	水環境課	214頁
水質監視事業(ダイオキシン類汚染対策調査)	環境基準の超過が認められている河川について、汚染の動向を監視する視点による調査、解析・考察を行う。	化学物質担当	水環境課	214頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業(ダイオキシン類調査(大気))	資源循環工場の運営協定に基づき、埼玉県環境整備センター及び資源循環工場の周辺地域の環境調査を継続的に実施する。	化学物質担当	資源循環推進課	215頁
化学物質総合対策推進事業(工業団地等周辺環境調査)	化学物質排出把握管理促進法対象化学物質のうち、大気への排出量の多い化学物質を中心に、事業場周辺における大気環境濃度の実態を把握する。	化学物質担当 大気環境担当	大気環境課	215頁
野生動物レスキュー事業	野鳥の不審死の原因を推定するため、胃内容物等に含まれる農薬等化学物質を分析検査する。	化学物質担当	みどり自然課	216頁
水質監視事業(公共用水域)	県内主要河川の環境基準達成状況を把握し、人の健康の保護と生活環境の保全を図る。	水環境担当	水環境課	216頁
工場・事業場水質規制事業	工場・事業場の排水基準の遵守及び公共用水域の保全を目的に、水質汚濁防止法及び県生活環境保全条例に基づき、環境管理事務所が実施した立ち入り検査等による採取検体の分析(クロスチェック)を行い、水質汚濁の防止に役立てる。	水環境担当 土壌・地下水・地盤担当	水環境課	217頁
水質事故対策事業	油類の流出、魚類の浮上・へい死等の異常水質事故の発生に際し、迅速に発生源及び原因物質を究明して適切な措置を講じることにより、汚染の拡大を防止し、県民の健康被害の防止及び水質の保全を図る。	水環境担当	水環境課	217頁
川の国応援団支援事業	県民による自立的な川の再生活動が継続されるよう、川の再生活動に取り組む団体を支援するとともに、民と民との連携強化を図り、「川の国埼玉」を実現する。	水環境担当	水環境課	218頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
綾瀬川・中川水質集中改善事業	綾瀬川及び中川の水質改善対策を部局横断的な取組により進め、「全国水質ワースト5河川(国土交通省直轄管理区間)」からの脱却を図る。	水環境担当	水環境課 越谷市環境 経済部環境 政策課	218頁
水質監視事業(地下水常時監視)	地下水の水質調査を行うことで、環境基準の達成状況や地下水の汚染地域を把握し、事業所等への指導と併せ、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	土壌・地下水・ 地盤担当 水環境担当	水環境課	219頁
土壌・地下水汚染対策事業	汚染が懸念される土壌・地下水等の調査・分析・解析等により、汚染状況の把握及び汚染機構の解明を行い、土壌・地下水汚染対策の推進を図る。	土壌・地下水・ 地盤担当	水環境課	219頁
放射線対策事業	福島第一原子力発電所事故による放射線の影響について、いまだに多くの県民が不安を抱いていることから、一般環境における放射線の測定を実施し、県民の安心・安全を確保する。	環境放射能担当	大気環境課 水環境課	220頁
環境ビジネス推進事業	環境科学国際センター及び県内企業が蓄積した水処理技術に関する技術やノウハウを移転し、中国の環境改善を図る。	研究企画室 水環境担当	環境政策課	220頁

5.3 他研究機関との連携

埼玉県が直面している環境に関する諸問題へ対応するための試験研究や環境面での国際貢献など、環境科学国際センターが環境に関する総合的中核機関として機能するためには、当センターにおける研究活動の高度化、活性化をより一層図っていく必要がある。そこで、大学や企業等との共同研究や研究協力を積極的に推進するとともに、他の研究機関から客員研究員を迎えて研究交流や情報交換を行っている。

また、早稲田大学理工学術院総合研究所と研究交流協定(平成12年6月)、埼玉大学と教育研究の連携・協力に関する覚書(平成14年3月)及び立正大学環境科学研究所と研究交流協定(平成20年5月)を締結し、大学と共同研究、人的交流等の連携を推進している。

平成26年度は、国内外で38課題を実施した。

(1) 国内の大学・民間企業等との共同研究・研究協力

共同研究・研究協力一覧

(32課題)

連携先	研究課題名及び概要	担当者
(一財)日本自動車研究所	「大気環境の改善とバイオマス由来粒子の季節変化に関する調査研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.87)、7.2外部資金研究概要(p.196)	坂本和彦 佐坂公規
法政大学、 東京都環境科学研究所、 長野県環境保全研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究)」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.83)、7.2外部資金研究概要(p.185)	嶋田知英 米倉哲志 三輪誠 竹内庸夫
首都大学東京、 (独)海洋研究開発機構	「複数の降水量データを用いたアジアモンスーン域の各地域(インドシナ半島、海洋大陸など)での降水量変動の特徴の理解」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.87)、7.2外部資金研究概要(p.198)	原政之
北海道大学、 北海道立総合研究機構 環境科学研究センター、 ほか8機関	「広域測定網における大気汚染測定フィルターの再利用による光学的黒色炭素粒子の測定」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.84)、7.2外部資金研究概要(p.188)	松本利恵
早稲田大学理工学術院	「サブミクロン粒子PM ₁ の都心と郊外との比較と特性解明」 PM _{2.5} の多くはPM ₁ として存在すると考えられ、一方で、粗大粒子の影響をほとんど受けないと考えられる。本研究は、これまで早稲田大学敷地内で実施してきた粒子状物質捕集と性状の比較を、更に発展させ、郊外と都心とのPM ₁ の詳細な比較を行う。	米持真一
早稲田大学理工学術院	「工場内で利用可能なVOC局所対策手法の開発に関する研究」 中小企業における自主的な取組によるVOC排出抑制を支援するため、特に使用済みウエス入れを対象として、VOC排出を抑えるため、VOCの動態を定量化するとともに、容器外への漏洩を極力抑制するための、新しいウエス入れの開発を試みる。	米持真一
日本ゴア(株)	「PTFE素材を用いたPM _{2.5} 捕集性能の評価に関する研究」 日本ゴア(株)で開発した、PTFEを素材とするフィルム状材料を対象とし、実大気を用いたPM _{2.5} 捕集実験および詳細な性能評価に関する技術的検討を行う。	米持真一
早稲田大学理工学術院、 (公財)労働科学研究所	「作業実態に応じた効果的なVOC発散防止・抑制方法に関する調査研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.83)、7.2外部資金研究概要(p.187)	米持真一 梅沢夏実
福島県立医科大学	「微小エアロゾルの放射能評価に関する研究」 東京電力(株)福島第一原発事故により、大気中に放出された放射性物質の人体への影響を明らかにする上で、肺の深部まで達する微小エアロゾル中に含まれる放射能の評価が重要であるため、環境科学国際センターが採取したPM _{2.5} 及びPM ₁ 中の放射能について測定と解析を行う。	米持真一

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
(独)国立環境研究所	「関東における粒子状物質削減のための動態解明」(Ⅰ型共同研究) 関東域における粒子状物質の大気動態の解明を目的として、大気観測を行い、PMの動態、特にSOAの移流や反応についての観測データを収集し、シミュレーションなどを介して、関東域におけるPMの空間分布を把握する。	長谷川就一
(独)国立環境研究所、 大阪市立環境科学研究所、ほか52機関	「PM2.5の短期的／長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明」(Ⅱ型共同研究) 高濃度汚染時のPM2.5観測とデータベース化、レセプターモデルによる発生源種別寄与評価、化学輸送モデルによる地域別寄与評価、間欠測定データと長期平均値の関係解析、PM2.5の新たな分析項目や手法の検討などを行うことで、PM2.5の短期および長期基準超過をもたらす汚染機構を解明し、環境基準達成への対策に資する知見を得る。	長谷川就一
(独)農業環境技術研究所、 (独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(不確実性を考慮した農業影響および適応策の評価)」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.83)、7.2外部資金研究概要(p.185)	米倉哲志 三輪誠 嶋田知英
(独)国立環境研究所、ほか8機関	「植物のストレス診断と環境モニタリングに関する研究」(Ⅱ型共同研究) 野外における植物のストレス診断及び植物を用いた環境モニタリングを行うための分子的メカニズムに基づく手法の開発・確立を目指す。特に、植物のオゾンストレスや放射線影響を指標植物の遺伝子発現解析等によって診断する手法を確立するとともに、市民の理解を深めるために研究結果の普及を図る。	三輪誠
茨城大学	「高濃度二酸化炭素環境下におけるオゾンが水稻に及ぼす影響とその品種間差の要因解明」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.85)、7.2外部資金研究概要(p.193)	米倉哲志
(公財)産業廃棄物処理事業振興財団、 九州大学、京都大学、 長崎大学、ほか12機関	「プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.83)、7.2外部資金研究概要(p.186)	川寄幹生
早稲田大学理工学術院、 東京大学、太平洋セメント(株)、(株)エンビプロ・ホールディングス、スズクホールディングス(株)、JFEエンジニアリング(株)、(株)ミダック、(株)コーレンス	「一般廃棄物焼却灰からの貴金属回収に関する基礎研究」 一般廃棄物焼却灰の貴金属の由来・存在状態を把握し、その回収に関する基礎データを得る。また、既存の選別、濃縮装置等を組み合わせた回収技術及び事業モデル構築を目指す。	川寄幹生
高知大学、北海道大学、 (独)国立環境研究所、 岡山大学、京都大学、 鳥取大学、愛媛大学	「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.86)、7.2外部資金研究概要(p.194)	長谷隆仁
岡山大学、名古屋大学	「地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスのガス化／多段触媒変換プロセスの開発に関する研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.83)、7.2外部資金研究概要(p.186)	鈴木和将
(独)国立環境研究所、 東京都環境科学研究所、 ほか24機関	「国内における化審法関連物質の排出源及び動態の解明」(Ⅱ型共同研究) 全国の地方環境研究所が、国内で対策が進んでいない残留性有機汚染物質や有機フッ素化合物について共同調査等を行い、排出源及び環境動態等の解明を進める。	茂木守 野尻喜好

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
(独)国立環境研究所、 統計数理研究所、 大阪市立環境科学研 究所、広島県総合技術研 究所保健環境センター	「精密質量データ解析法の開発と環境化学物質モニタリングへの応用」 (再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.86)、7.2外部資金研究概要(p.194)	大塚宜寿
(独)産業技術総合研究所	「揮発性メチルシロキサンの高精度分析法開発に関する研究」 新規環境汚染物質の揮発性メチルシロキサンについて、環境中濃度を 高感度・高精度で評価できる分析法を開発し、その分析法の標準規格化を 目指す。	堀井勇一
静岡県立大学	「ハロゲン化多環芳香族炭化水素類の環境モニタリングとリスク評価に関 する研究」 ダイオキシン類と同等の環境リスクが懸念されているハロゲン化多環芳 香族炭化水素について、分析法の検討、環境モニタリング、及びリスク評 価等を行う。	堀井勇一
(株)島津製作所	「環境水のTOC計測手法に関する研究」 河川や湖沼等の環境水のTOC計測に関して、試料の前処理及び分析 装置の最適化に関して検討し、的確な分析手法を確立する。	高橋基之 池田和弘
滋賀県琵琶湖環境科学 研究センター、神戸大学、 滋賀県立大学、兵庫県立 大学	「湖沼に蓄積する難分解性溶存有機物の藻類影響評価試験法の開発」 (再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.84)、7.2外部資金研究概要(p.189)	田中仁志
富山大学、東北大学、 氷見市教育委員会、 (独)国立環境研究所	「稀少淡水二枚貝のイシガイ類保全のための人工増殖に向けた餌資源の 解明」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.84)、7.2外部資金研究概要(p.190)	田中仁志
(独)国立環境研究所 岩手県環境保健研究セン ター、千葉県環境研究セン ター、滋賀県琵琶湖環 境科学研究センター、ほ か3機関	「WET手法を用いた水環境調査のケーススタディ」(I型共同研究) 本共同研究を今後のWETの規制化に向けたケーススタディと位置づけ、 国立環境研究所と地方環境研究所との技術の共有化や現在既に有してい る技術の精度確認、さらに試験手法及びTRE/TIE手法などのブラッシュア ップに向けた知見の集積を目指す。	田中仁志
(地独)大阪府立環境農林 水産総合研究所	「河川生態系への影響が心配な神経毒性農薬の汚染実態と水生昆虫によ る生態影響試験開発」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.85)、7.2外部資金研究概要(p.193)	田中仁志 大塚宜寿
早稲田大学理工学術院	「魚類生息環境評価手法の開発と適用に関する包括的研究」 淡水魚を主な対象として、魚類生息環境評価手法のライフサイクルリス クアセスメントについて、主要な魚種や実河川の評価に基づく精緻化を行 う。本年度は、熊谷市内の河川・水路を中心にフィールド調査を実施した。	木持謙
日本大学	「下水処理プロセスにおけるN ₂ O生成ポテンシャルの評価」(再掲) 5.2.1自主研究(p.82)、7.1自主研究概要(p.177)	見島伊織
埼玉県下水道局、 (公財)埼玉県下水道公 社	「埼玉県内の流域下水道におけるN ₂ O発生量の把握と発生抑制方法の基 礎的検討」 埼玉県内の流域下水道を対象として、水処理プロセスから排出される N ₂ Oの発生量を算定し、N ₂ Oの発生量と他の水質との解析やモデルを使っ た解析を行い、N ₂ O発生抑制方法について検討を行う。	見島伊織 柿本貴志
東京大学地震研究所	「地下熱環境調査のための地下温度計測と長期温度モニタリング」 温暖化による地下熱環境の変化の調査を行い、低温地熱資源利用の 推進に役立つ基礎データの取得を行うとともに、地球科学的研究のために 深部の地下温度構造等の推定を行う。	白石英孝 八戸昭一 石山高 濱元栄起

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
(独)産業技術総合研究所、秋田大学	「埼玉県平野部の地下水環境に関する研究」 埼玉県平野部および周辺地域における地下水環境の解明を目標とし、地下水情報の取得と評価を行う。	濱元栄起

(2)国際共同研究

(6課題)

事業名・期間・連携先	研究課題名及び概要	担当者
(独)科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成22～27年度) 研究代表:愛媛大学 その他連携先:(独)産業技術総合研究所、大阪府立大学、東京大学、(独)国立環境研究所、三栄ハウス(株)、(一社)海外環境協力センター、(株)数理計画、メテオリサーチ(株) 相手国連携先:メキシコ・国立環境・気候変動局	「オゾン、VOCs、PM2.5生成機構の解明と対策シナリオ提言共同研究プロジェクト」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.86)、7.2外部資金研究概要(p.195)	長谷川就一
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(平成24～26年度) 相手国連携先:中国・上海大学、中国環境科学研究院	「磁気分離法を利用した微小粒子中金属の化合形態の解明」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.84)、7.2外部資金研究概要(p.188)	米持真一 梅沢夏実 王効挙
韓国済州緑色環境支援センター研究基金 (平成25～26年度) 研究代表:韓国済州大学校	「済州地域における微細粒子の排出源推定のための超微粒子物質調査」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.87)、7.2外部資金研究概要(p.196)	米持真一 田中仁志 坂本和彦
(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(平成25～27年度) 研究代表:秋田大学 その他連携先:日本大学 相手国連携先:インドネシア・国立ガジャマダ大学	「東南アジアにおける水銀利用による環境汚染の回復と持続的産業発展に関する研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.84)、7.2外部資金研究概要(p.189)	王効挙
(独)科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成23～27年度) 研究代表:埼玉大学 その他連携先:早稲田大学、(独)産業技術総合研究所 相手国連携先:スリランカ国・ペラデニヤ大学、ルフナ大学、キャンディ基礎研究所、中央環境庁、全国廃棄物管理支援センター	「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.86)、7.2外部資金研究概要(p.195)	長森正尚 渡辺洋一 磯部友護
国際貢献事業 (平成25～27年度) 相手国連携先:中国・上海大学	「生活ごみ焼却飛灰の資源化」 中国各地の都市ごみ焼却炉飛灰の資源化を推進するため、無害化処理等を行った試料のダイオキシン類濃度を測定し、その有効性を評価する。	細野繁雄 王効挙 茂木守 大塚宜寿

(3) 大学・大学院からの学生の受入れ

共同研究等の実施に伴い大学・大学院から派遣された学生に研究指導を行った。また、大学からの依頼により実習生を受け入れ、研究員による研究実習を行った。

大学との共同研究、研究協力の実施に伴う学生の受入実績

(受入7名)

所 属	摘 要
埼玉大学大学院理工学研究科 1名	埼玉大学 木幡邦男 連携教授
早稲田大学大学院創造理工学研究科 修士課程 3名	理工学術院 名古屋俊士 教授
早稲田大学創造理工学部 2名	
静岡県立大学大学院 薬食生命科学総合学府 博士課程 1名	静岡県立大学 三宅祐一 助教

実習生の受入実績

(受入11名)

所 属	実 習 期 間
日本工業大学ものづくり環境学科 7名	平成26年8月4日～8月8日
明星大学理工学部総合理工学学科環境・生態学系 1名	平成26年7月29日～9月5日
明星大学理工学部総合理工学学科環境・生態学系 1名	平成26年8月19日～8月29日
早稲田大学創造理工学部環境資源工学科 2名	平成26年8月5日～8月14日

(4) 客員研究員の招へい

実績と経験を有する研究者を当センター客員研究員として招き、当センターで行っている調査・研究業務に対して研究指導や助言等を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター客員研究員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
増富 祐司	茨城大学農学部地域環境科学科 准教授
大河内 博	早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授
鎌田 直人	東京大学大学院農学生命科学研究科演習林 秩父演習林 教授
谷川 昇	公益社団法人日本産業廃棄物処理振興センター 調査部長
中野 武	大阪大学大学院工学研究科 特任教授
藤野 毅	埼玉大学理工学研究科 研究部 環境科学・社会基盤部門 環境科学領域 准教授
小泉 謙	日本工営株式会社 コンサルタント海外事業本部 地圏防災室

(5) 研究審査会の開催

当センターが実施する研究課題について、外部有識者で構成する埼玉県環境科学国際センター研究審査会を開催し、当センターの研究に対する審査及び助言を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター研究審査会委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
小口 千明	埼玉大学大学院理工学研究科 准教授
河野 吉久	電力中央研究所 名誉研究アドバイザー
榊原 豊	早稲田大学理工学術院 教授
田中 充	法政大学社会学部 学部長
畠山 史郎	東京農工大学大学院農学研究院 教授
原澤 英夫	独立行政法人国立環境研究所 理事(研究担当)

5. 4 学会等における研究発表

5. 4. 1 論文

(25件)

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
Identifying the source of dioxin in sediment from Furuayase River, Japan, based on specific congener profiles	S. Hosono, N. Ohtsuka, K. Minomo, M. Sugisaki, K. Kohata, K. Kawamura ¹⁾ , Q. Wang ¹⁾	Journal of Water and Environment Technology, Vol.12, No.5, 431-445 (2014)	221頁
2011年11月に関東で観測されたPM _{2.5} 高濃度の解析	長谷川就一、米持真一、山田大介 ²⁾ 、鈴木義浩 ³⁾ 、石井克巳 ⁴⁾ 、齊藤伸治 ⁵⁾ 、鴨志田元喜 ⁶⁾ 、熊谷貴美代 ⁷⁾ 、城裕樹 ⁸⁾	大気環境学会誌、Vol.49, No.6、242-251 (2014)	221頁
Physicochemical properties and ability to generate free radicals of ambient coarse, fine, and ultrafine particles in the atmosphere of Xuanwei, China, an area of high lung cancer incidence	S. Lu ⁹⁾ , F. Yi ⁹⁾ , X. Hao ⁹⁾ , S. Yu ⁹⁾ , J. Ren ⁹⁾ , M. Wu ⁹⁾ , F. Jialiang ⁹⁾ , S. Yonemochi, Q. Wang ¹⁾	Atmospheric Environment, Vol.97, 519-528 (2014)	221頁
Physico-chemical characterization of PM _{2.5} in the microenvironment of Shanghai subway	S. Lu ⁹⁾ , D. Liu ⁹⁾ , W. Zhang ⁹⁾ , P. Liu ⁹⁾ , Y. Fei ⁹⁾ , Y. Gu ⁹⁾ , M. Wu ⁹⁾ , S. Yu ⁹⁾ , S. Yonemochi, X. Wang, Q. Wang ¹⁾	Atmospheric Research, Vol.153, 543-552 (2015)	222頁
富士山体を利用した夏季自由対流圏におけるガス状水銀の観測：2014年夏季集中観測結果	小川智司 ¹⁰⁾ 、大河内博 ¹⁰⁾ 、緒方裕子 ¹⁰⁾ 、梅沢夏実、三浦和彦 ¹¹⁾ 、加藤俊吾 ¹²⁾	大気環境学会誌、Vol.50, No.2、100-106 (2015)	222頁
Study on application of phytoremediation technology in management and remediation of contaminated soils	K. Oh, T. Cao ¹³⁾ , T. Li ¹⁴⁾ , H. Cheng ¹⁴⁾	Journal of Clean Energy Technologies, Vol.2, No.3, 216-220 (2014)	222頁
Effect of humic acid and bacterial manure on distribution of heavy metals in different organs of maize	T. Li ¹⁴⁾ , H. Cheng ¹⁴⁾ , K. Oh, S. Hosono	International Journal of Environmental Science and Development, Vol.5, No.4, 393-397 (2014)	223頁
Influence of bacterial manure on corn seedling photosynthetic characteristics in copper contaminated soil	Z. Guo ¹⁴⁾ , T. Li ¹⁴⁾ , J. Yang ¹⁴⁾ , K. Oh, H. Cheng ¹⁴⁾	Tianjin Agricultural Sciences, Vol.20, No.8, 25-28 (2014)	223頁
Effects of applying bacterial manure on enzymes of copper contaminated soil with planting corn	Z. Guo ¹⁴⁾ , T. Li ¹⁴⁾ , J. Yang ¹⁴⁾ , K. Oh, H. Cheng ¹⁴⁾	Tianjin Agricultural Sciences, Vol.20, No.10, 75-78 (2014)	223頁
Difference in density of fiber bundles exposed on surface of asbestos-containing materials -- with the aim to reduce time necessary for visual observation	H. Asakura ¹⁵⁾ , M. Kawasaki, K. Suzuki, K. Nakagawa ¹⁵⁾ , Y. Watanabe	International Journal of Environment and Resource, Vol.3, Issue 3, 46-53 (2014)	224頁
Determination and sorting of asbestos-containing material by visual observation	H. Asakura ¹⁵⁾ , M. Kawasaki, K. Suzuki, K. Nakagawa ¹⁵⁾ , Y. Watanabe	American Journal of Environmental Protection, Vol.3, Issue 5, 275-282 (2014)	224頁
埼玉県の前小山川におけるペルフルオロオクタンサルホン酸(PFOS)高濃度の原因となる排出源調査	茂木守、野尻喜好、細野繁雄、杉崎三男	全国環境研会誌、Vol.39, No.4、179-184 (2014)	224頁
水道管のライニングの種類・供用年数と管内流水中の懸濁物組成との関係	石渡恭之 ¹⁶⁾ 、宇津野典彦 ⁶⁾ 、見島伊織、加藤健 ¹⁷⁾ 、藤田昌史 ¹⁶⁾	水道協会雑誌、Vol.83, No.5、2-9 (2014)	225頁

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
実下水処理施設における硝化プロセスのN ₂ O生成ポテンシャルの解析	見島伊織、吉田征史 ¹⁸⁾ 、藤田昌史 ¹⁶⁾	水環境学会誌、Vol.37、No.6、219-227 (2014)	225頁
霞ヶ浦底泥における脱窒活性の分布特性及び水温と硝酸イオン濃度の影響	北村立実 ⁶⁾ 、渡邊圭司、須能紀之 ¹⁹⁾ 、吉尾卓宏 ⁶⁾ 、位田俊臣 ⁶⁾ 、花町優次 ⁶⁾ 、中村剛也 ⁶⁾ 、戸田任重 ²⁰⁾ 、林誠二 ²¹⁾ 、黒田久雄 ¹⁶⁾	水環境学会誌、Vol.37、No.6、265-271 (2014)	225頁
迅速な溶存態ガス採取法を用いた湖沼等のN ₂ O、CH ₄ 生成・放出ポテンシャルの評価	木持謙、田中仁志、徐開欽 ²¹⁾ 、稲森隆平 ²²⁾ 、稲森悠平 ²²⁾	日本水処理生物学会誌、Vol.50、No.3、121-131 (2014)	226頁
Effect of <i>Potamogeton pusillus</i> on water quality and plankton community	F. Takeda ¹⁸⁾ , K. Nakano ¹⁸⁾ , Y. Aikawa ²³⁾ , O. Nishimura ²³⁾ , Y. Shimada ²⁴⁾ , S. Fukuro ²⁴⁾ , H. Tanaka, N. Hayashi ²⁵⁾ , Y. Inamori ²⁶⁾	Journal of Water and Environment Technology, Vol.12, No.4, 333-345 (2014)	226頁
Evaluation of greenhouse gas emissions from a continuous activated sludge process under power saving conditions	K. Jono ²⁷⁾ , A. Sano ²¹⁾ , Y. Ogura ²¹⁾ , Y. Kimochi, H. Yamazaki ²⁸⁾ , K.Q. Xu ²¹⁾ , Y. Inamori ²²⁾ , N. Sugiura ²⁷⁾	Journal of Water and Environment Technology, Vol.12, No.4, 379-388 (2014)	226頁
Effect of ageing of pipe and lining materials on elemental composition of suspended particles in a water distribution system	M. Fujita ¹⁶⁾ , Y. Ishiwatari ¹⁷⁾ , I. Mishima, N. Utsuno ⁶⁾ , T. Kato ¹⁷⁾	Water Resources Management, Vol.28, Issue 6, 1645-1653 (2014)	227頁
Uptake and translocation of radiocesium in cedar leaves following the Fukushima nuclear accident	T. Nishikiori ²¹⁾ , M. Watanabe ²¹⁾ , M.K. Koshikawa ²¹⁾ , T. Takamatsu ²¹⁾ , Y. Ishij ²¹⁾ , S. Ito ²¹⁾ , A. Takenaka ²¹⁾ , K. Watanabe, S. Hayashi ²¹⁾	Science of the Total Environment, Vol.502, 611-616 (2015)	227頁
宇宙線生成核種と物質収支法を用いた花崗岩山地の化学的風化速度の推定—北アルプス芦間川流域の事例—	八反地剛 ²⁷⁾ 、松四雄 ²⁹⁾ 、北村裕規 ²⁷⁾ 、小口千明 ¹⁾ 、八戸昭一、松崎浩之 ³⁰⁾	地形、Vol.35、No.2、147-164 (2014)	227頁
地中熱利用システムのための地下温度情報の整備とポテンシャルの評価—埼玉県をモデルとして—	濱元栄起、白石英孝、八戸昭一、石山高、佐竹健太、宮越昭暢 ³¹⁾	物理探査、Vol.67、No.2、107-119 (2014)	228頁
Heat flow survey in the vicinity of the branches of the megasplay fault in the Nankai accretionary prism	M. Yamano ³²⁾ , Y. Kawada ³²⁾ , H. Hamamoto	Earth, Planets and Space, Vol.66:126 (2014) doi:10.1186/1880-5981-66-126	228頁
Heat flow anomaly on the seaward side of the Japan Trench associated with deformation of the incoming Pacific plate	M. Yamano ³²⁾ , H. Hamamoto, Y. Kawada ³²⁾ , S. Goto ³¹⁾	Earth and Planetary Science Letters, Vol.407, 196-204 (2014)	228頁
Possible mechanism of mud volcanism at the prism-backstop contact in the western Mediterranean Ridge Accretionary Complex	A. Kioka ³³⁾ , J. Ashi ³³⁾ , A. Sakaguchi ³⁴⁾ , T. Sato ³⁵⁾ , S. Muraoka ³³⁾ , A. Yamaguchi, ³³⁾ , H. Hamamoto, K. Wang ³⁶⁾ , H. Tokuyama ³⁷⁾	Marine Geology, Vol.363, 52-64 (2015)	229頁

(注) 執筆者の所属機関名は270ページに一覧にした。

論文名	執筆者	会議録	抄録
Physicochemical characterization and perspectives on the studies of nanoparticles emitted from coal combustion -Take the ambient particles from Xuanwei coal combustion as an example	P. Liu ⁹⁾ , D. Liu ⁹⁾ , S. Lu ⁹⁾ , X. Hao ⁹⁾ , W. Zhang ⁹⁾ , R. Zhang ⁹⁾ , Q. Wang ¹⁾ , X. Wang, S. Yonemochi	Proceedings of the 16th Annual Meeting of China Association for Science and Technology, 79-85 (2014) (25 May 2014, Kunming, China)	230頁
Physicochemical characterization of street dusts collected from Xuanwei of China	D. Liu ⁹⁾ , W. Zhang ⁹⁾ , S. Lu ⁹⁾ , P. Liu ⁹⁾ , X. Hao ⁹⁾ , R. Zhang ⁹⁾ , Q. Wang ¹⁾ , X. Wang, S. Yonemochi	Proceedings of the 16th Annual Meeting of China Association for Science and Technology, 86-89 (2014) (25 May 2014, Kunming, China)	230頁
Development of a model for evaluation of total recycling and waste treatment system of organic waste -A case study in Kochi prefecture, Japan-	T. Hase, Y. Watanabe, M. Yamada ²¹⁾ , T. Fujiwara ³⁷⁾	Proceedings of the 9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries, Volume I, 399-406 (2014) (25 Nov. 2014, Kochi, Japan)	230頁
Determination of volatile organic compounds (VOCs) in Gohagoda municipal solid waste landfill leachate, Sri Lanka	P. Kumarathilaka ³⁸⁾ , H. Wijesekara ³⁸⁾ , B.F.A. Basnayake ³⁹⁾ , K. Kawamoto ¹⁾ , M. Nagamori, T. Saito ¹⁾ , M. Vithanage ³⁸⁾	Proceedings of the 5th International Conference on Sustainable Built Environment (ICSBE-2014), 124-128 (2014) (13 Dec. 2014, Kandy, Sri Lanka)	231頁
Potential use of municipal solid waste biochar for the remediation of toluene generated from the Gohagoda landfill site, Sri Lanka	Y. Jayawardhana ³⁸⁾ , S. Mayakaduwa ³⁸⁾ , P. Kumarathilaka ³⁸⁾ , A. Karunarathna ³⁹⁾ , B.F.A. Basnayake ³⁹⁾ , K. Kawamoto ¹⁾ , M. Nagamori, T. Saito ¹⁾ , M. Vithanage ³⁸⁾	Proceedings of the 5th International Conference on Sustainable Built Environment (ICSBE-2014), 129-133 (2014) (13 Dec. 2014, Kandy, Sri Lanka)	231頁
Spatial variability of Pb, Cu, Ni and Fe in groundwater and identification of contaminant plume in an open landfill: A case study in Udapalatha PS, Central Province, Sri Lanka	U. Kumarasinghe ³⁹⁾ , M.I.M. Mowjood ³⁹⁾ , S. Hettiarachchi ³⁹⁾ , G.B.B. Herath ³⁹⁾ , M. Nagamori, K. Kawamoto ¹⁾	Proceedings of the 5th International Conference on Sustainable Built Environment (ICSBE-2014), 142-146 (2014) (13 Dec. 2014, Kandy, Sri Lanka)	231頁
Spatiotemporal variation of water quality around and inside an open solid waste dumpsite in Sri Lanka	M. Nagamori, U. Kumarasinghe ³⁹⁾ , S. Hettiarachchi ³⁹⁾ , M.I.M. Mowjood ³⁹⁾ , G.B.B. Herath ³⁹⁾ , Y. Isobe, Y. Watanabe, Y. Inoue ¹⁾ , K. Kawamoto ¹⁾	Proceedings of the 3rd International Symposium on Advances in Civil and Environmental Engineering Practices for Sustainable Development (ACEPS 2015), 148-154 (2015) (9 Mar. 2015, Galle, Sri Lanka)	232頁
Electromagnetic survey (GEM-2) for monitoring of an open dumpsite in Sri Lanka	S. Kamaleswaran ³⁹⁾ , P.P.U. Kumarasinghe ³⁹⁾ , M.I.M. Mowjood ³⁹⁾ , M. Nagamori, Y. Isobe, Y. Watanabe, G.B.B. Herath ³⁹⁾ , K. Kawamoto ¹⁾	Proceedings of the 3rd International Symposium on Advances in Civil and Environmental Engineering Practices for Sustainable Development (ACEPS 2015), 169-175 (2015) (9 Mar. 2015, Galle, Sri Lanka)	232頁

論文名	執筆者	会議録	抄録
Estimation of leachate generation using HELP model in an open dumpsite in Sri Lanka	N.M. Muthukumara ³⁹⁾ , P.P.U. Kumarasinghe ³⁹⁾ , M.I.M. Mowjood ³⁹⁾ , M. Nagamori, Y. Isobe, Y. Watanabe, Y. Inoue ¹⁾ , G.B.B. Herath ³⁹⁾ , K. Kawamoto ¹⁾	Proceedings of the 3rd International Symposium on Advances in Civil and Environmental Engineering Practices for Sustainable Development (ACEPS 2015), 176-185 (2015) (9 Mar. 2015, Galle, Sri Lanka)	232頁
Adsorption characterization of Pb, Cu and Ni and municipal solid waste from an open dump site, Sri Lanka	P.P.U. Kumarasinghe ³⁹⁾ , S. Kamaleswaran ³⁹⁾ , N.T.B. Madusankha ³⁹⁾ , M.I.M. Mowjood ³⁹⁾ , M. Nagamori, G.B.B. Herath ³⁹⁾ , K. Kawamoto ¹⁾	Proceedings of the 3rd International Symposium on Advances in Civil and Environmental Engineering Practices for Sustainable Development (ACEPS 2015), 206-212 (2015) (9 Mar. 2015, Galle, Sri Lanka)	233頁
Behaviors of 8:2 fluorotelomer alcohol and the biotransformation compounds in sewage treatment processes	M. Motegi, K. Nojiri, Y. Horii	Organohalogen Compounds, Vol.76, 301-304 (2014) 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2014) (1 Sep. 2014, Madrid, Spain)	233頁
Formation mechanism of chlorinated pyrene in combustion of polyvinyl chloride	Y. Miyake ⁴⁰⁾ , Q. Wang ⁴⁰⁾ , T. Amagai ⁴⁰⁾ Y. Horii	Organohalogen Compounds, Vol.76, 628-631 (2014) 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2014) (1 Sep. 2014, Madrid, Spain)	233頁
Mass loading and fate of volatile methyl siloxanes in two different types of sewage treatment plants from Japan	Y. Horii, K. Minomo, M. Motegi, K. Nojiri	Organohalogen Compounds, Vol.76, 752-755 (2014) 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2014) (4 Sep. 2014, Madrid, Spain)	234頁
Combustion-originated dioxins transferring from atmospheric to water environment by rainwater runoff in Saitama, Japan	K. Minomo, N. Ohtsuka, K. Nojiri, R. Matsumoto, K. Kohata	Organohalogen Compounds, Vol.76, 838-841 (2014) 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2014) (4 Sep. 2014, Madrid, Spain)	234頁
Environmental impact assessment of a sewage treatment plant under different operating conditions	I. Mishima, N. Yoshikawa ⁴¹⁾ , Y. Yoshida ¹⁸⁾ , K. Amano ⁴¹⁾	Proceedings of the 9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries, 74-81 (2014) (26 Nov. 2014, Kochi, Japan)	234頁
Evaluation of phosphorus removal by iron electrolysis using X-ray absorption fine structure measurement	I. Mishima, K. Ikeda, Y. Yokoyama ⁴¹⁾ , J. Nakajima ⁴¹⁾	Proceedings of the 9th IWA International Symposium on Waste Management Problems in Agro-Industries, 180-187 (2014) (26 Nov. 2014, Kochi, Japan)	235頁
Comparison of size-segregated chemical composition in ambient particles collected by two classification instruments	K. Shibata ⁴²⁾ , K. Enya ⁴²⁾ , K. Sakamoto	Abstract of the 2014 International Aerosol Conference (IAC2014), AF0173 (2014) (28 Aug. 2014, Busan, Korea)	235頁

論文名	執筆者	会議録	抄録
Large-scale variations of surface energy-water balance and its causes in 1980-2010	K. Takata ⁴³ , J. Xu ²⁷ , M. Hara, T. Nozawa ⁴⁴	Abstract of the International Symposium on Agricultural Meteorology (ISAM2015) in Tsukuba, E-16 (2015) (19 Mar. 2015, Tsukuba, Japan)	235頁
Observation of acidic trace gases, gaseous mercury, and water-soluble inorganic aerosol species at the top and the foot of Mt. Fuji	S. Ogawa ¹⁰ , H. Okochi ¹⁰ , T. Isobe ¹⁰ , H. Ogata ¹⁰ , T. Nagoya ¹⁰ , Y. Minami ⁴⁵ , M. Takeuchi ⁴⁷ , H. Kobayashi ⁴⁸ , K. Miura ¹¹ , S. Kato ¹² , M. Uematsu ³⁰ , N. Umezawa	Abstract of the International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014, 234 (2014) (24 Nov. 2014, Bangkok, Thailand)	236頁
Estimation of influence of artifact on carbonaceous aerosol measurement	S. Hasegawa	Abstract of the 2014 International Aerosol Conference (IAC2014), AF1060 (2014) (31 Aug. 2014, Busan, Korea)	236頁
Long-term measurements of carbonaceous aerosol at Cape Hedo, Okinawa Japan: Analyses of the effects of changes in emissions in East Asia	K. Shimada ⁴⁸ , A. Takami ²¹ , S. Hasegawa, A. Fushimi ²¹ , S. Hatakeyama ⁴⁸	Abstract of the 13th International Global Atmospheric Chemistry (IGAC) Science Conference on Atmospheric Chemistry, 256-257 (2014) (25 Sep. 2014, Natal, Brazil)	236頁
Ozone dose-response relationships for yield of Japanese rice cultivars	T. Yonekura, Y. Masutomi	Abstract of the International Conference on Ozone and Plants 2014, P37 (2014) (20 May 2014, Beijing, China)	237頁
Groundwater and leachate quality variation in an open solid waste dumpsite: A case study in Udapalatha PS, Central Province, Sri Lanka	M.I.M. Mowjood ³⁹ , T. Koide ¹ , M. Nagamori, P.P.U. Kumarasinghe ³⁹ , K. Kawamoto ¹ , G.B.B. Herath ³⁹	Abstract of the Research Exchanger Seminar - Landfill Leachate Management, 11 (2014) (5 Jun. 2014, Singapore, Singapore)	237頁
Occurrence and distribution of volatile methylsiloxanes in river waters from Saitama, Japan	Y. Horii, K. Minomo, M. Motegi, N. Ohtsuka, K. Nojiri	Abstract of the 34th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, P911 (2014) (4 Sep. 2014, Madrid, Spain)	237頁
Occurrence of neonicotinoid insecticides in river waters in Saitama Prefecture, Japan	N. Ohtsuka, K. Nojiri, K. Minomo, M. Motegi, Y. Horii	Abstract of the International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014, 251 (2014) (25 Nov. 2014, Bangkok, Thailand)	238頁
Occurrence of volatile methylsiloxanes in water, sediment and fish samples from Motoarakawa River, Japan	Y. Horii, K. Minomo, K. Nojiri, H. Kanazawa	Abstract of the International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014, 276 (2014) (24 Nov. 2014, Bangkok, Thailand)	238頁
Interaction of PFOS, PFOA and 8:2 FTOH with human, rat, and microbial cytochrome P450s: Similarities and differences	V. Beškosi ⁴⁹ , T. Nakano ⁵⁰ , C. Matsumura ⁵¹ , K. Yamamoto ⁵¹ , A. Yamamoto ⁵² , M. Motegi, H. Okamura ⁵³ , H. Inui ⁵³	Abstract of the International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014, 309 (2014) (25 Nov. 2014, Bangkok, Thailand)	238頁

論文名	執筆者	会議録	抄録
Biotransformation of perfluorinated compounds by the action of microbial community isolated from polluted environment - Road to successful bioremediation	V. Beškoski ⁴⁹⁾ , T. Nakano ⁵⁰⁾ , A. Yamamoto ⁵²⁾ , C. Matsumura ⁵¹⁾ , K. Yamamoto ⁵¹⁾ , M. Motegi, H. Okamura ⁵³⁾ , H. Inui ⁵³⁾	Abstract of the International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014, 310 (2014) (24 Nov. 2014, Bangkok, Thailand)	239頁
Diurnal, daily, and seasonal variations of volatile methylsiloxanes in a sewage treatment plant from Saitama, Japan	Y. Horii, K. Minomo, K. Nojiri, H. Tsurumi ⁵⁴⁾ , T. Aoki ⁵⁴⁾	Abstract of the SETAC North America 35th Annual Meeting, 351-352 (2014) (12 Nov. 2014, Vancouver, Canada)	239頁
An evaluation of habitats for freshwater bivalve unionid mussels in terms of water qualities in brooklets running through rice paddy fields in Himi City, Japan	H. Tanaka, K. Takahashi ¹⁾ , Y. Kimochi, D. Tanaka ⁵⁵⁾ , T. Takahashi ⁵⁵⁾ , A. Sakatoku ⁵⁵⁾ , S. Nakamura ⁵⁵⁾ , M. Nishio ^{55,56)} , M. Fujibayashi ²³⁾ , O. Nishimura ²³⁾ , K. Kohata	Abstract of the 16th International Symposium on River and Lake Environment (ISRLE), 161 (2014) (25 Aug. 2014, Chuncheon, Korea)	239頁
Occurrence of arsenic in sediment pore waters in the central Kanto Plain, Japan	S. Hachinohe, H. Hamamoto, T. Ishiyama, S. Hossain ¹⁾ , C.T. Oguchi ¹⁾	Geophysical Research Abstracts, Vol.16, EGU2014-4788-1 (2014) (2 May 2014, Vienna, Austria)	240頁
Geochemical fractionations and mobility of arsenic, lead and cadmium in sediments of the Kanto Plain, Japan	S. Hossain ¹⁾ , C.T. Oguchi ¹⁾ S. Hachinohe, T. Ishiyama, H. Hamamoto	Geophysical Research Abstracts, Vol.16, EGU2014-4807 (2014) (2 May 2014, Vienna, Austria)	240頁
Vertical variation of potential mobility of heavy metal in sediment to groundwater of the Kanto plain, Japan	S. Hossain ¹⁾ , S. Hachinohe, T. Ishiyama, H. Hamamoto, C.T. Oguchi ¹⁾	Abstract of the 2014 AGU Fall Meeting, H11A-0843 (2014) (15 Dec. 2014, San Francisco, USA)	240頁
Synthesis of subsurface temperature information and evaluation of the potential for setting up borehole heat exchanger in the central part of the Kanto Plain, Japan	H. Hamamoto, H. Shiraishi, S. Hachinohe, T. Ishiyama, K. Satake, A. Miyakoshi ³¹⁾	Geophysical Research Abstracts, Vol.16, EGU2014-3234-3 (2014) (28 Apr. 2014, Vienna, Austria)	241頁
Combined evaluation of regional groundwater flow and groundwater temperature suggests subsurface warming in the Tokyo metropolitan area	A. Miyakoshi ³¹⁾ , T. Hayashi ³⁵⁾ , H. Hamamoto, S. Hachinohe, M. Kawai ⁵⁷⁾ , S. Kawashima ⁵⁷⁾	Abstract of the Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 11th Annual Meeting, HS11-A005 (2014) (29 Jul. 2014, Sapporo, Japan)	241頁
Heat flow variation along the Nankai Trough correlated with the structure of the Shikoku Basin	M. Yamano ³²⁾ , Y. Kawada ³²⁾ , S. Goto ³¹⁾ , H. Hamamoto	Abstract of the Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 11th Annual Meeting, SE15-A009 (2014) (1 Aug. 2014, Sapporo, Japan)	241頁
Impacts of urbanization and global warming on groundwater flow and subsurface temperature in the Tokyo metropolitan area, Japan	A. Miyakoshi ³¹⁾ , T. Hayashi ³⁵⁾ , H. Hamamoto, S. Hachinohe, M. Kawai ⁵⁷⁾ , S. Kawashima ⁵⁷⁾	Abstract of the International Association of Hydrogeologists (IAH), 41st IAH International Congress, T1136 (2014) (16 Sep. 2014, Marrakech, Morocco)	242頁

(注) 執筆者の所属機関名は270ページに一覧にした。

5.4.3 総説・解説

(19件)

題名	執筆者	掲載誌	抄録
大気環境と水環境の保全	坂本和彦	生活と環境、Vol.59、No.8、37-43 (2014)	243頁
粒子状物質(TSP・SPM・PM _{2.5})汚染と対策—成分測定的重要性—	坂本和彦	埼環協ニュース、通巻229号、9-14 (2014)	243頁
大気汚染における粒子状物質とPM _{2.5}	坂本和彦	化学物質と環境、No.126、1-4 (2014)	243頁
大気環境の現状と課題	坂本和彦	環境ニュース、Vol.143、2-7 (2014)	244頁
粒子状物質による大気汚染の変遷と現状	坂本和彦	表面科学、Vol.36、No.3、141-143 (2015)	244頁
埼玉県環境科学国際センターにおける国際環境協力への取組み	細野繁雄、星野弘志	全国環境研会誌、Vol.39、No.4、185-192 (2014)	244頁
異常水質事故時における地方環境研究所の役割	高橋基之	水環境学会誌、Vol.38(A)、No.3、104-107 (2015)	245頁
地球温暖化と埼玉県の実態と対策	嶋田知英	環境ニュース、Vol.145、2-7 (2015)	245頁
有害大気汚染物質～より質の高い環境を目指して	梅沢夏実	環境ニュース、Vol.144、2-7 (2014)	245頁
日本と中国のPM _{2.5} の性状と関東地域の越境大気汚染の影響	米持真一	環境システム計測制御学会誌、Vol.19、No.4、58-62 (2015)	246頁
PM _{2.5} 概説—基礎知識と実態—	長谷川就一	化学と教育、Vol.62、No.9、420-423 (2014)	246頁
外来甲殻類が及ぼす水域の生態系サービスへの影響	金澤光	水環境学会誌、Vol.38(A)、No.2、51-55 (2015)	246頁
葉緑素計(SPAD値)によるハウレンソウ品種のオゾン感受性の推定	太田友代 ⁵⁸⁾ 、 印南ゆかり ⁵⁸⁾ 、三輪誠	埼玉県農林総合研究センター研究報告、第13号、34-42 (2014)	247頁
一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究(その4)—資源化の促進及び埋立量削減への方策について—	川寄幹生、磯部友護、 鈴木和将、渡辺洋一、 花田隆 ⁵⁹⁾ 、武田隼一 ⁵⁹⁾ 、 生田考 ⁵⁹⁾	都市清掃、Vol.67、No.319、248-252 (2014)	247頁
使用済み化粧品・医薬品・医薬部外品の処理処分の現状と課題	川寄幹生	廃棄物資源循環学会誌、Vol.25、No.3、165-172 (2014)	247頁
廃棄物処理法の役割と適正処理の推進	川寄幹生	廃棄物資源循環学会誌、Vol.25、No.6、413-419 (2014)	248頁
揚水返送循環方式による最終処分場安定化促進基礎技術開発	田中宏和 ⁶⁰⁾ 、椿雅俊 ⁶¹⁾ 、 磯部友護、大石修 ⁴⁾	福井県衛生環境研究センター年報、第12巻、80-83 (2014)	248頁
電磁探査と比抵抗探査を用いた最終処分場の構造解析	大石修 ⁴⁾ 、磯部友護、 川寄幹生、遠藤和人 ²¹⁾	平成25年度千葉県環境研究センター年報 (2015) http://www.pref.chiba.lg.jp/wit/hai-ka/nenpou/documents/ar2013haika-k001.pdf	248頁
道路交通振動に係る要請限度の検証	横島潤紀 ⁶²⁾ 、松本泰尚 ¹⁾ 、 白石英孝、太田篤史 ⁶³⁾ 、 田村明弘 ⁶³⁾	神奈川県環境科学センター研究報告、第37号、30-36 (2014)	249頁

(注) 執筆者の所属機関名は270ページに一覧にした。

5.4.4 国内学会発表

(70件)

期日	学会の名称	発表テーマ	発表者及び共同研究者	抄録
H26. 4. 28	日本地球惑星科学連合2014年大会 (横浜市)	紀伊半島沖～四国沖南海トラフ底の熱流量分布: 四国海盆の地殻構造が温度構造に及ぼす影響	山野誠 ³²⁾ 、川田佳史 ³²⁾ 、 後藤秀作 ³¹⁾ 、濱元栄起	266頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H26. 5. 14	第23回環境化学討論会 (京都大学)	河川水／底質系における <i>N</i> -MeFOSE と <i>N</i> -EtFOSEの生分解挙動の比較	茂木守、野尻喜好、 堀井勇一	261頁
H26. 5. 14	第23回環境化学討論会 (京都大学)	ダイオキシン類分析過程での硫酸処 理によるいくつかの異性体の消失	蓑毛康太郎、大塚宜寿、 野尻喜好	261頁
H26. 5. 14	第23回環境化学討論会 (京都大学)	下水処理施設における揮発性メチル シロキサンのマスバランス調査	堀井勇一、蓑毛康太郎、 茂木守、野尻喜好	261頁
H26. 5. 14	第23回環境化学討論会 (京都大学)	生成・分解速度解析に基づく燃烧副 生成する塩素化ピレンの生成機構調 査	三宅祐一 ⁴⁰⁾ 、王齊 ⁴⁰⁾ 、 雨谷敬史 ⁴⁰⁾ 、堀井勇一	262頁
H26. 5. 14	第23回環境化学討論会 (京都大学)	環状メチルシロキサンの亜臨界水分解	柿澤拓也 ⁶⁴⁾ 、堀久男 ⁶⁴⁾ 、 堀井勇一	262頁
H26. 5. 15	第23回環境化学討論会 (京都大学)	下水処理場におけるフッ素テロマーア ルコール類の挙動	野尻喜好、堀井勇一、 茂木守	262頁
H26. 5. 15	第23回環境化学討論会 (京都大学)	埼玉県における河川水中のネオニコ チノイド系殺虫剤の存在実態	大塚宜寿、野尻喜好、 蓑毛康太郎、茂木守、 堀井勇一	262頁
H26. 5. 15	第23回環境化学討論会 (京都大学)	下水処理施設周辺環境における揮発 性メチルシロキサンの濃度分布	堀井勇一、蓑毛康太郎、 野尻喜好	263頁
H26. 5. 15	第23回環境化学討論会 (京都大学)	東京湾集水域におけるハロゲン化多 環芳香族炭化水素類の環境残留特性	堀井勇一、神谷優太 ⁶⁵⁾ 、 大浦健 ⁶⁵⁾	263頁
H26. 5. 16	第23回環境化学討論会 (京都大学)	実験炉と実施データと比較によるハ ロゲン化多環芳香族炭化水素類の生 成機構解析	王齊 ⁴⁰⁾ 、三宅祐一 ⁴⁰⁾ 、 雨谷敬史 ⁴⁰⁾ 、堀井勇一、 野尻喜好、大塚宜寿	263頁
H26. 7. 22	第51回下水道研究発表会 (大阪市)	下水処理場における異なる運転条件 下の環境影響評価	見島伊織、吉川直樹 ⁴¹⁾ 、 天野耕二 ⁴¹⁾ 、吉田征史 ¹⁸⁾	264頁
H26. 8. 6	日本エアロゾル学会第31 回エアロゾル科学・技術研 究討論会 (つくば市)	全国的な同期観測によるPM2.5の季節 的・地域的特徴	長谷川就一、菅田誠治 ²¹⁾ 、山本勝彦 ⁶⁶⁾ 、山本重 一 ⁶⁷⁾ 、谷口延子 ⁶⁸⁾ 、秋山 雅行 ⁶⁹⁾ 、家合浩明 ⁷⁰⁾ 、 山崎敬久 ⁷¹⁾ 、三田村徳 子 ⁷²⁾ 、小林優太 ⁷³⁾ 、 田村圭 ⁷⁴⁾	250頁
H26. 8. 6	日本エアロゾル学会第31 回エアロゾル科学・技術研 究討論会 (つくば市)	西日本で観測されたPM2.5高濃度イベ ントの発生要因と地域発生、越境移流 の評価	山本重一 ⁶⁷⁾ 、濱村研吾 ⁶⁷⁾ 、下原孝章 ⁶⁷⁾ 、小林優 太 ⁷³⁾ 、長田健太郎 ⁷⁵⁾ 、 田村圭 ⁷⁴⁾ 、長谷川就一、 飯島明宏 ⁷⁶⁾ 、菅田誠治 ²¹⁾	250頁
H26. 9. 9	日本生物環境工学会2014 年東京大会 (明治大学)	Investigation of ultra-short term growth behavior of plants under the influence of heavy metal using a High Sensitive Interferometric Technique	K.T.K.M. De Silva ¹⁾ 、 H. Kadono ¹⁾ 、K. Oh	257頁
H26. 9. 15	第25回廃棄物資源循環学 会研究発表会 (広島工業大学)	埋立処分からみた不燃ごみ処理の課 題	川寄幹生、磯部友護、 鈴木和将、渡辺洋一	258頁
H26. 9. 15	第25回廃棄物資源循環学 会研究発表会 (広島工業大学)	電磁探査と比抵抗探査を用いた最終 処分場の構造解析	大石修 ⁴⁾ 、磯部友護、 川寄幹生、遠藤和人 ²¹⁾	258頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H26. 9. 15	第25回廃棄物資源循環学会研究発表会 (広島工業大学)	アスベスト含有建材断面に観察される 繊維束の面積	渡辺洋一、川寄幹生、 磯部友護、鈴木和将、 朝倉宏 ¹⁵⁾	258頁
H26. 9. 16	第25回廃棄物資源循環学会研究発表会 (広島工業大学)	GISを用いた廃棄物系バイオマスのガ ス化改質施設の最適配置に関する研 究	鈴木和将、藤原健史 ⁴⁴⁾ 、 川本克也 ⁴⁴⁾	259頁
H26. 9. 16	第25回廃棄物資源循環学会研究発表会 (広島工業大学)	埋立工法が中間処理残渣埋立物の安 定化に及ぼす影響	東條安匡 ⁷⁷⁾ 、田村和樹 ⁷⁷⁾ 、松尾孝之 ⁷⁷⁾ 、松藤敏 彦 ⁷⁷⁾ 、磯部友護、椿雅俊 ⁶¹⁾ 、小野雄策 ⁷⁸⁾	259頁
H26. 9. 16	第25回廃棄物資源循環学会研究発表会 (広島工業大学)	管理型最終処分場の廃止基準に関す る考察(8)	長森正尚、磯部友護	259頁
H26. 9. 16	第25回廃棄物資源循環学会研究発表会 (広島工業大学)	アスベスト含有建材の表面に露出する 繊維束の偏りの調査	朝倉宏 ¹⁵⁾ 、鈴木和将、 川寄幹生、渡辺洋一	259頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	高流量型光化学スモッグチャンバーの 設計と評価	萩野浩之 ⁷⁹⁾ 、細谷純一 ⁷⁹⁾ 、伊藤剛 ⁷⁹⁾ 、坂本和 彦、伊藤晃佳 ⁷⁹⁾	250頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	粒径別大気粒子と自動車排気粒子の 炭素分析から見た特徴	柴田慶子 ⁴²⁾ 、塩谷健二 ⁴²⁾ 、坂本和彦	251頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	埼玉県における二酸化炭素濃度と排 出量との関係について	武藤洋介	250頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	二次有機エアロゾルの酸化ストレス評 価のための関東域での粒子状物質の 総合的観測 ー概要とAMS観測	高見昭憲 ²¹⁾ 、佐藤圭 ²¹⁾ 、 伏見暁洋 ²¹⁾ 、藤谷雄二 ²¹⁾ 、古山昭子 ²¹⁾ 、吉野彩 子 ²¹⁾ 、森野悠 ²¹⁾ 、田邊潔 ²¹⁾ 、小林伸治 ²¹⁾ 、平野靖 史郎 ²¹⁾ 、萩野浩之 ⁷⁹⁾ 、 長谷川就一、熊谷貴美 代 ⁷⁾ 、齊藤勝美 ⁸⁰⁾	251頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	2013年夏季関東における粒子状物質 を暴露した細胞の酸化ストレス反応	古山昭子 ²¹⁾ 、佐藤圭 ²¹⁾ 、 伏見暁洋 ²¹⁾ 、藤谷雄二 ²¹⁾ 、 吉野彩子 ²¹⁾ 、森野悠 ²¹⁾ 、 田邊潔 ²¹⁾ 、小林伸治 ²¹⁾ 、 平野靖史郎 ²¹⁾ 、萩野浩 之 ⁷⁹⁾ 、長谷川就一、熊谷 貴美代 ⁷⁾ 、齊藤勝美 ⁸⁰⁾ 、 高見昭憲 ²¹⁾	251頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	全国酸性雨調査(87) ー乾性沈着(沈 着量の推計)ー	遠藤朋美 ⁷⁰⁾ 、松本利恵、 福田裕 ⁸¹⁾ 、野口泉 ⁶⁹⁾ 、 松田和秀 ⁴⁸⁾	251頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	埼玉県北部におけるPM2.5中の一次排 出/二次生成指標成分の測定	佐坂公規、米持真一、 長谷川就一、梅沢夏実、 松本利恵、野尻喜好、 竹内庸夫、坂本和彦	252頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	光学的方法によるブラックカーボン粒子濃度の全国調査(2)	松本利恵、野口泉 ⁶⁹⁾ 、 恵花孝昭 ⁸²⁾ 、横山新紀 ⁴⁾ 木戸瑞佳 ⁷¹⁾ 、初鹿宏壮 ⁷¹⁾ 中島寛則 ⁸³⁾ 、山神真紀 子 ⁸³⁾ 、竹友優 ⁸⁴⁾ 、武市佳 子 ⁸⁵⁾ 、高木智史 ⁸⁶⁾ 、濱村 研吾 ⁶⁷⁾ 、岩崎綾 ⁸⁷⁾ 、村尾 直人 ⁷⁷⁾	252頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	埼玉県加須市におけるブラックカーボンの挙動	松本利恵	252頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	レボグルコサン分析方法の検討	城裕樹 ⁸⁾ 、長谷川就一、 米持真一	252頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	2013年8、9月におけるPM2.5高濃度事例の解析	橋本貴世 ⁸⁸⁾ 、山神真紀 子 ⁸³⁾ 、高士昇吾 ⁸⁹⁾ 、松岡 靖史 ⁹⁰⁾ 、野口邦雅 ⁹¹⁾ 、佐 久間隆 ⁹²⁾ 、長谷川就一、 菅田誠治 ²¹⁾	253頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	2014年3月におけるPM2.5高濃度事例の解析	山神真紀子 ⁸³⁾ 、橋本貴 世 ⁸⁸⁾ 、熊谷貴美代 ⁷⁾ 、高 士昇吾 ⁸⁹⁾ 、松岡靖史 ⁹⁰⁾ 、 野口邦雅 ⁹¹⁾ 、菊池一馬 ⁹³⁾ 長谷川就一、菅田誠治 ²¹⁾	253頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	全国PM2.5成分測定結果から見た高濃度日における地域別化学組成の特徴	熊谷貴美代 ⁷⁾ 、田子博 ⁷⁾ 、 寺本佳宏 ⁸⁹⁾ 、橋本貴世 ⁸⁸⁾ 山神真紀子 ⁸³⁾ 、牧野雅 英 ⁹¹⁾ 、木下誠 ⁹⁴⁾ 、長谷川 就一、佐久間隆 ⁹²⁾ 、菅田 誠治 ²¹⁾	253頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	PMFおよびCMBモデルを用いた西日本におけるPM2.5発生源寄与率の推定	飯島明宏 ⁷⁶⁾ 、池盛文教 ⁸³⁾ 長谷川就一、菅田誠治 ²¹⁾	253頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	富士山体を利用した自由対流圏大気中酸性ガスおよびエアロゾルの観測(5)	小川智司 ¹⁰⁾ 、大河内博 ¹⁰⁾ 磯部貴陽 ¹⁰⁾ 、緒方裕子 ¹⁰⁾ 名古屋俊士 ¹⁰⁾ 、皆巳幸 也 ⁴⁵⁾ 、竹内政樹 ⁴⁶⁾ 、小林 拓 ⁴⁷⁾ 、三浦和彦 ¹¹⁾ 、加藤 俊吾 ¹²⁾ 、植松光夫 ³³⁾ 、 米持真一、梅沢夏実	254頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	植物に対する低線量環境放射線の影響(2)	青野光子 ²¹⁾ 、三輪誠、 岡崎淳 ⁴⁾ 、小松宏昭 ⁶²⁾ 、 武田麻由子 ⁶²⁾ 、岡村祐 里子 ⁸³⁾ 、山神真紀子 ⁸³⁾ 、 須田隆一 ⁶⁷⁾ 、古川誠 ⁹⁵⁾ 、 渡邊稔 ⁹⁵⁾ 、中村佐知子 ⁹⁶⁾ 尾川成彰 ⁹⁷⁾ 、玉置雅紀 ²¹⁾ 中嶋信美 ²¹⁾ 、久保明弘 ²¹⁾ 佐治光 ²¹⁾	257頁
H26. 9. 17	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	葉に発現する可視被害の程度に基づいたホウレンソウとコマツナにおける品種間オゾン感受性差異に関する検討	三輪誠、印南ゆかり ⁵⁸⁾	257頁
H26. 9. 17	第25回廃棄物資源循環学会研究発表会 (広島工業大学)	中間処理残さ主体埋立物の安定化遅延機構に関する生物学的な検討	石垣智基 ²¹⁾ 、鈴木和将、 磯部友護、川寄幹生、 山田正人 ²¹⁾ 、東條安匡 ⁷⁷⁾	260頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H26. 9. 17	第25回廃棄物資源循環学会研究発表会 (広島工業大学)	篩分け堆積廃棄物の安息角試験結果を用いた斜面安定性評価の検討	土居洋一 ⁹⁸⁾ 、山脇敦 ⁹⁹⁾ 、川寄幹生、小林優子 ⁹⁸⁾	260頁
H26. 9. 17	第28回全国浄化槽技術研究集会 (さいたま市)	リン除去型浄化槽におけるリン除去性能向上のための基礎的検討	見島伊織、濱みずほ ¹⁰⁰⁾ 、田畑洋輔 ¹⁰⁰⁾ 、野澤勉 ¹⁰¹⁾ 、田中義勝 ¹⁰²⁾ 、中島淳 ⁴¹⁾	264頁
H26. 9. 17	第28回全国浄化槽技術研究集会 (さいたま市)	三次元励起蛍光スペクトル法による浄化槽機能診断手法開発に向けた基礎的検討	池田和弘、見島伊織、田畑洋輔 ¹⁰⁰⁾ 、野澤勉 ¹⁰¹⁾ 、田中義勝 ¹⁰²⁾ 、中島淳 ⁴¹⁾	264頁
H26. 9. 18	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	沿道と一般環境における大気中ナノ粒子の粒径分布の長期観測(2004-2013)	高橋克行 ¹⁰³⁾ 、藤谷雄二 ²¹⁾ 、伏見暁洋 ²¹⁾ 、長谷川就一、田邊潔 ²¹⁾ 、小林伸治 ²¹⁾	254頁
H26. 9. 18	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	都市大気環境中におけるナノ粒子の動向	大石沙紀 ¹⁰⁾ 、米持真一、村田克 ¹⁰⁾ 、大河内博 ¹⁰⁾ 、名古屋俊士 ¹⁰⁾	254頁
H26. 9. 18	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	富士山頂における粒子の化学組成	大石沙紀 ¹⁰⁾ 、米持真一、村田克 ¹⁰⁾ 、大河内博 ¹⁰⁾ 、名古屋俊士 ¹⁰⁾	254頁
H26. 9. 18	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	日中韓同時観測における2013年夏季と冬季のPM2.5の特徴	米持真一、S. Lu ⁹⁾ 、X. Chen ¹⁰⁴⁾ 、J. Yang ¹⁰⁴⁾ 、L. Kiho ¹⁰⁵⁾ 、王効挙、田中仁志、柳本悠輔 ¹⁰⁾ 、大石沙紀 ¹⁰⁾ 、名古屋俊士 ¹⁰⁾ 、大河内博 ¹⁰⁾	255頁
H26. 9. 18	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	2014年2月におけるPM2.5高濃度事例の解析	熊谷貴美代 ⁷⁾ 、山神真紀子 ⁸³⁾ 、橋本貴世 ⁸⁸⁾ 、野口邦雅 ⁹¹⁾ 、木下誠 ⁹⁴⁾ 、長谷川就一、菅田誠治 ²¹⁾	255頁
H26. 9. 18	日本騒音制御工学会秋季研究発表会 (明治大学)	異なる振動評価量による交通振動の暴露量評価と社会反応の関係に関する検討	松本泰尚 ¹⁾ 、横島潤紀 ⁶²⁾ 、白石英孝	267頁
H26. 9. 19	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	粒子状炭素成分測定におけるアーティファクトの影響検討(4)	長谷川就一	255頁
H26. 9. 19	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	埼玉県におけるPM2.5成分の季節・年度・地域変動とその要因	長谷川就一、米持真一、松本利恵	255頁
H26. 9. 19	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	福島第一原発事故直後からのPM2.5およびPM1中放射性セシウムの推移	米持真一、佐竹健太、白石英孝、細野繁雄、小林良夫、大浦泰嗣 ¹²⁾ 、反町篤行 ¹⁰⁶⁾	256頁
H26. 9. 19	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	わが国における大気中HONOの挙動(5)	野口泉 ⁶⁹⁾ 、山口高志 ⁶⁹⁾ 、松本利恵、岩崎綾 ⁸⁷⁾ 、玉森洋樹 ¹⁰⁷⁾ 、堀江洋佑 ⁵¹⁾ 、竹友優 ⁸⁴⁾ 、坂本武大 ⁸⁵⁾ 、恵花孝昭 ⁸²⁾ 、竹中規訓 ¹⁰⁸⁾	256頁
H26. 9. 19	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	フィルターパック法を用いた大気中ガス・エアロゾル成分濃度の日内変動(3)	野口泉 ⁶⁹⁾ 、山口高志 ⁶⁹⁾ 、秋山雅行 ⁶⁹⁾ 、松本利恵、竹友優 ⁸⁴⁾	256頁
H26. 9. 19	第55回大気環境学会年会 (愛媛大学)	低流量・長時間捕集による大気中水銀測定-2	梅沢夏実	256頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H26. 12. 21	第51回環境工学研究フォーラム (山梨大学)	河川水質監視への三次元励起蛍光スペクトル法の適用に関する基礎的検討	池田和弘、柿本貴志、見島伊織、渡邊圭司、高橋基之	264頁
H27. 1. 21	第36回全国都市清掃研究・事例発表会 (沼津市)	最終処分場での比抵抗探査における低比抵抗領域の評価に関する研究	磯部友護、高橋武春 ¹⁰⁹⁾ 、松隈勇太 ¹¹⁰⁾	260頁
H27. 1. 22	第36回全国都市清掃研究・事例発表会 (沼津市)	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究(その5)－今後の課題－	川寄幹生、磯部友護、鈴木和将、渡辺洋一	260頁
H27. 1. 22	第36回全国都市清掃研究・事例発表会 (沼津市)	最終処分場における乾電池の取り扱い見直しのための水銀含有量調査	清水辰人 ¹¹¹⁾ 、長森正尚	261頁
H27. 3. 14	第62回応用物理学学会春季学術講演会 (東海大学)	Ultra short-term growth behaviour of plants under the influence of Cadmium using a highly sensitive interferometric technique, SIT	K.T.K.M. De Silva ¹⁾ , H. Kadono ¹⁾ , K. Oh	257頁
H27. 3. 16	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	資源植物を用いた汚染土壌の修復に関する研究－ダイズ品種間の差－	王効挙、米持真一、磯部友護、細野繁雄、三輪誠、米倉哲志、金澤光	258頁
H27. 3. 16	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	環状メチルシロキサンの亜臨界水分解	柿澤拓也 ⁶⁴⁾ 、倉田柚花 ⁶⁴⁾ 、堀井勇一、堀久男 ⁶⁴⁾	263頁
H27. 3. 16-17	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	埼玉県内の主要河川における溶存N ₂ Oの挙動特性	見島伊織、池田和弘、柿本貴志、渡邊圭司、増田周平 ¹¹²⁾ 、丸尾知佳子 ²³⁾ 、西村修 ²³⁾	265頁
H27. 3. 16-17	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	付着藻類が繁茂する河川における有機物の分画と蛍光特性	池田和弘、見島伊織、柿本貴志、渡邊圭司、高橋基之	265頁
H27. 3. 16-17	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	GISを用いた水質事故データベースの構築と事故特性解析	柿本貴志	265頁
H27. 3. 16-17	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	富山県水見市におけるイタセンパラとイシガイ類が生息する小河川の水質調査	田中仁志、高橋和暉 ¹⁾ 、木持謙、田中大祐 ⁵⁵⁾ 、酒徳昭宏 ⁵⁵⁾ 、中村省吾 ⁵⁵⁾ 、藤林恵 ²³⁾ 、西村修 ²³⁾ 、西尾正輝 ⁵⁶⁾ 、木幡邦男	265頁
H27. 3. 17	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	鉄電解法を用いた浄化槽における共存物質のリソ除去促進効果	横山裕太 ⁴¹⁾ 、濱みずほ ¹⁰⁰⁾ 、田畑洋輔 ¹⁰⁰⁾ 、見島伊織、池田和弘、中島淳 ⁴¹⁾	266頁
H27. 3. 17	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	埼玉県北部の市街地を流れる水路における希少魚類定着に向けた環境・水質調査	木持謙、田中仁志、金澤光	266頁
H27. 3. 17	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	土壌中砒素を対象とした鉄酸化物分別溶解法の特徴とその問題点	石山高、八戸昭一、濱元栄起	267頁
H27. 3. 18	第49回日本水環境学会年会 (金沢大学)	高度処理浄化槽における間欠ばっ気/物理的リソ除去法を導入した温室効果ガス低減と水質向上の両立技術の開発	岩崎真 ²⁷⁾ 、木持謙、山崎宏史 ²⁸⁾ 、徐開欽 ²¹⁾ 、稲森隆平 ²²⁾ 、稲森悠平 ²²⁾ 、佐竹隆顕 ²⁷⁾	266頁

(注) 共同研究者の所属機関名は270ページに一覧にした。

5.4.5 その他の研究発表

(31件)

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H26. 5. 19	ワークショップ「数値流体シミュレーション手法とその数学的基盤」(香川県小豆島町)	廃棄物問題におけるその数理学の必要性	鈴木和将
H26. 7. 1	Advanced studies of chemical substance environmental assessment focusing on cVMS (Tokyo, Japan)	Volatile methylsiloxanes in the water environment: Method development and application to environmental monitoring in Tokyo Bay watershed	Y. Horii
H26. 7. 15	埼玉県下水道公社第25回調査研究事業報告会(戸田市)	埼玉県内の流域下水道におけるN ₂ O発生量の把握と発生抑制方法の基礎的検討	見島伊織、柿本貴志
H26. 7. 18	平成26年度全国環境研協議会関東甲信静支部騒音振動専門部会(土浦市)	道路交通に起因する家屋振動の調査事例	白石英孝
H26. 7. 31	The 10th Japan-Korea Environment Symposium (CESS, Japan)	Volatile methylsiloxanes in the water environment: Method development and application to environmental monitoring in Saitama, Japan	Y. Horii, K. Minomo, N. Ohtsuka, M. Motegi, K. Nojiri
H26. 7. 31	The 10th Japan-Korea Environment Symposium (CESS, Japan)	Investigation of greenhouse gas emissions: Nitrous oxide emissions from a wastewater treatment plant in Saitama, Japan	I. Mishima
H26. 7. 31	The 10th Japan-Korea Environment Symposium (CESS, Japan)	Characterization of aerosol pollution by joint observation between Japan, China and South Korea	S. Yonemochi, K.H. Lee ¹⁰⁵⁾ , H. Tanaka
H26. 9. 16	平成26年度全国環境研協議会騒音振動担当者会議(横浜市)	振動及び低周波音の調査事例	白石英孝
H26. 10. 23	第17回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)(高松市)	埼玉県におけるニホンジカに係わる現状の把握	三輪誠、嶋田知英
H26. 10. 27	湧水保全フォーラム全国大会inおおがき(大垣市)	湧水にすむ絶滅危惧種「ムサシトミヨ」生息地に出現した特定外来生物とその駆除について	金澤光
H26. 10. 31	II型研究「国内における化審法関連物質の排出源及び動態の解明」研究推進会議(広島市)	下水処理施設における8:2フルオロテロマーアルコールとその分解生成物の挙動	茂木守
H26. 10. 31	平成26年度全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会(静岡市)	埼玉県内河川におけるクロロフィルa濃度と滞留区間における藻類生成	柿本貴志、池田和弘、見島伊織、渡邊圭司
H26. 11. 4	環太平洋ネクサスプロジェクト第2回全体会議(別府市)	地中熱エネルギー - 小浜平野をモデルとして -	濱元栄起、宮下雄次 ¹¹³⁾ 、田原大輔 ¹¹⁴⁾ 、藤井賢彦 ⁷⁷⁾
H26. 11. 4	環太平洋ネクサスプロジェクト第2回全体会議(別府市)	自噴地域における水・エネルギー連環による地下水保全手法の開発と実証に関する研究 - 小浜自噴帯湧水の地中熱利用と地下水保全 -	宮下雄次 ¹¹³⁾ 、濱元栄起、田原大輔 ¹¹⁴⁾

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H26. 11. 21	「済州地域における微細粒子の排出源特定のための超微粒子状物質調査」成果報告会 (韓国済州大学校)	Evaluation of trans-boundary air pollution of fine particulate matter focused on trace elements in the East Asia	S. Yonemochi
H26. 11. 21	「済州地域における微細粒子の排出源特定のための超微粒子状物質調査」成果報告会 (韓国済州大学校)	Analysis on bacterial community structure in ambient air over Jeju Island (Korea), Kazo and Toyama	H. Tanaka, D. Tanaka ⁵⁵ , S. Yonemochi
H26. 11. 28	第32回埼環協研究発表会 (さいたま市)	土壌中重金属類の溶出特性とそれに基づく自然由来土壌汚染の類型化	石山高
H26. 12. 11	エコプロダクツ展併設セミナー「地域における気候変動適応策への挑戦～成果報告」(東京都江東区)	埼玉県における気候変動適応と研究所の貢献	嶋田知英
H26. 12. 11	第41回環境保全・公害防止研究発表会 (神戸市)	植物に対する低線量環境放射線の影響	青野光子 ²¹⁾ 、玉置雅紀 ²¹⁾ 中嶋信美 ²¹⁾ 、久保明弘 ²¹⁾ 佐治光 ²¹⁾ 、三輪誠、岡崎淳 ⁴⁾ 、小松宏昭 ⁶²⁾ 、武田麻由子 ⁶²⁾ 、岡村祐里子 ⁸³⁾ 山神真紀子 ⁸³⁾ 、須田隆一 ⁶⁷⁾ 、古川誠 ⁹⁵⁾ 、渡邊稔 ⁹⁵⁾ 、中村佐知子 ⁹⁶⁾ 、尾川成彰 ⁹⁷⁾
H26. 12. 11	第41回環境保全・公害防止研究発表会 (神戸市)	下水処理場におけるフッ素テロマーアルコール類のマスバランス	野尻喜好、堀井勇一、茂木守
H26. 12. 11	第41回環境保全・公害防止研究発表会 (神戸市)	大腸菌測定における疎水性格子付メンブランフィルターの不具合の発見～クロスチェックの有効性と他機関との連携～	石井裕一 ⁵⁾ 、和波一夫 ⁵⁾ 、木瀬晴美 ⁵⁾ 、渡邊圭司、高橋基之
H26. 12. 11	第41回環境保全・公害防止研究発表会 (神戸市)	希少二枚貝イシガイ科の保護を目的とした生息個体密度が異なる水路における水質の比較	田中仁志、木持謙
H26. 12. 16	循環型社会形成推進研究発表会 (大阪市)	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究	川寄幹生
H27. 1. 20	日本水環境学会MS技術研究委員会主催第21回e-シンポ(大阪大学)	大気中デクロランプラス及び類縁化合物の測定法の検討	蓑毛康太郎
H27. 2. 28	ムサントミヨ繁殖報告会 (熊谷市)	ムサントミヨ生息地に侵入した外来甲殻類ヌマエビ科カワリヌマエビ属の現状について	金澤光
H27. 3. 13	大気環境学会環境大気モニタリング分科会第36回研究会(東京都江東区)	日中韓同時観測から見た中国大都市のPM2.5の特徴と関東地域への影響	米持真一
H27. 3. 14	第19回荒川流域再生シンポジウム「自然遡上のアユを復元するための連携について語ろう」(嵐山町)	2014年度アユ遡上環境調査の結果と6年間の結果報告	金澤光
H27. 3. 20	廃棄物資源循環学会関東支部講演会(早稲田大学)	開発ガス化改質技術で製造された燃料ガスの有効利用システムに関する研究	鈴木和将、藤原健史 ⁴⁴⁾ 、川本克也 ⁴⁴⁾

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H27. 3. 21	川のシンポジウム2015春 「元小山川を取り巻く環境 について」(本庄市)	元小山川に侵入した外来甲殻類ヌマエビ科 カワリヌマエビ属について	金澤光
H27. 3. 22	第8回成果報告会(NPO 法人富士山測候所を活用 する会)(東京大学)	富士山頂における粒子の観測	大石沙紀 ¹⁰ 、米持真一、 村田克 ¹⁰ 、大河内博 ¹⁰ 、 名古屋俊士 ¹⁰
H27. 3. 29	新河岸川水系水環境連絡 会主催講演会(朝霞市)	荒川・新河岸川流域に侵入した外来甲殻類ヌ マエビ科カワリヌマエビ属の現状について	金澤光

(注) 共同研究者の所属機関名は270ページに一覧にした。

5.4.6 報告書

(6件)

報告書名	発行者	執筆担当	執筆者	発行年	抄録
ストップ温暖化・埼玉ナビゲ ーション2050推進事業 平成25年度二酸化炭素濃度 観測結果	埼玉県環境部温 暖化対策課、 埼玉県環境科学 国際センター	全章	武藤洋介	H26	268頁
ストップ温暖化・埼玉ナビゲ ーション2050推進事業 埼玉県温室効果ガス排出量 推計報告書2011年度確報値	埼玉県環境部温 暖化対策課、 埼玉県環境科学 国際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 竹内庸夫	H26	268頁
ストップ温暖化・埼玉ナビゲ ーション2050推進事業 埼玉県温室効果ガス排出量 推計報告書2012年度速報値	埼玉県環境部温 暖化対策課、 埼玉県環境科学 国際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 竹内庸夫	H26	268頁
ストップ温暖化・埼玉ナビゲ ーション2050推進事業 埼玉県温度実態調査報告書 (平成25年度)	埼玉県環境部温 暖化対策課、 埼玉県環境科学 国際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 高橋基之	H26	268頁
ストップ温暖化・埼玉ナビゲ ーション2050推進事業 埼玉縣市町村温室効果ガス 排出量推計報告書2012年度	埼玉県環境部温 暖化対策課、 埼玉県環境科学 国際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 原政之	H27	269頁
国立環境研究所研究報告 (R-210-2014) PM _{2.5} と光化学オキシダント の実態解明と発生源寄与評 価に関する研究	国立環境研究所	3.1.2 基本解析 関東甲信 静地域(pp.17~26) 4.3 高濃度エピソード解析 2011年11月粒子状物質高濃度 事例(関東) (pp.92~101)	長谷川就一 長谷川就一 米持真一 山田大介 ²⁾ 鈴木義浩 ³⁾ 石井克巳 ⁴⁾ 齊藤伸治 ⁵⁾ 嶋志田元喜 ⁶⁾ 熊谷貴美代 ⁷⁾ 城裕樹 ⁸⁾	H27	269頁

5.4.7 書籍

(3件)

書籍名	出版社	執筆分担	執筆者	発行年
森林環境2015	森林文化協会	特集:進行する気候変動と森林～私たちはど う適応するか 自治体の施策に適応策を組み込むには (pp.70~78)	嶋田知英	H27

書籍名	出版社	執筆分担	執筆者	発行年
みんなが知りたいPM2.5の疑問25	成山堂書店	Q3 PM2.5の環境基準はどのようになっていますか？(pp.16～21) Q6 PM2.5の成分はどのように測定しますか？(pp.33～38) Q21 日本の国や自治体はどのような対応や対策を行っていますか？(pp.133～136)	長谷川就一	H26
新・関東の地盤－増補地盤情報データベースと地盤モデル付(2014年版)	丸善出版(株)	3.4 埼玉県の地盤 (pp.81～96)	八戸昭一 林武司 ³⁵⁾ 和田里絵 ¹⁰⁵⁾ 長田昌彦 ¹⁾	H26

(注) 共同研究者の所属機関名は270ページに一覧にした。

5.4.8 センター報

(6件)

種別	課題名	執筆者	掲載号
研究報告	ムサシトミヨ生息域における河川環境の調査と簡易・効率的な流入汚水対策技術の検討	木持謙、金澤光、高橋基之、王効挙、柿本貴志、亀屋隆志 ⁶³⁾	第14号、78-84(2014)
資料	見沼田圃における土地利用の変遷	嶋田知英	第14号、85-88(2014)
資料	新聞記事データベースに見る「地球温暖化」の定着	嶋田知英	第14号、89-91(2014)
資料	市民の温暖化適応策に関する意識調査	嶋田知英	第14号、92-94(2014)
資料	埼玉県に生息する魚類の分布について	金澤光	第14号、95-106(2014)
資料	微動探査法における深度方向指向性に関する研究	白石英孝	第14号、107-108(2014)

(注) 共同研究者の所属機関名は270ページに一覧にした。

5.5 講師・客員研究員等

(1) 大学非常勤講師

(14件)

期 日	講 義 内 容	講義場所	氏 名
H26. 7. 4	慶応義塾大学大学院非常勤講師 「環境・資源・エネルギー特論第1」	慶応義塾大学	坂本和彦
H26年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携教授(連携大学院) 「海洋環境学特論」「環境総合評価特別輪講Ⅱ」	埼玉大学	木幡邦男
H26年度前期	埼玉大学工学部非常勤講師 「有機化学概論」	埼玉大学	米持真一
H26年度後期	高崎経済大学地域政策学部非常勤講師 「物質と環境／自然科学概論」	高崎経済大学	長谷川就一
H26年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「自然環境評価特論」「大気環境測定演習」「汚染負荷評価」	埼玉大学、 環境科学国際 センター	三輪誠
H26年度前期	法政大学生命科学部非常勤兼任講師 「環境安全化学」	法政大学	米倉哲志
H26年度後期	埼玉大学工学部非常勤講師 「材料循環工学」	埼玉大学	磯部友護 柿本貴志
H26年度後期	埼玉大学工学部非常勤講師 「水環境学」	埼玉大学	柿本貴志 池田和弘 田中仁志 木持謙
H26年度後期	東洋大学理工学部非常勤講師 「水環境学／水環境化学」	東洋大学	高橋基之
H26. 10. 24	早稲田大学グローバル・リーダーシップ・フェローズ・フォーラム招聘 講師 「中国の環境汚染」	早稲田大学	米持真一
H26. 11. 17	早稲田大学大学院創造理工学研究科招聘講師 「環境学特論B／日本の水質環境基準とその課題」	早稲田大学	高橋基之
H26. 12. 11	明星大学理工学部非常勤講師 「アジア地域における水環境の現状と保全・修復のための国際協力」	明星大学	木持謙
H26年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「環境計測学」「水環境汚染評価」「土壌・地下水汚染特論」	埼玉大学	石山高
H26年度後期	日本大学文理学部非常勤講師 「環境地質学」	日本大学	八戸昭一

(2) 客員研究員

(16件)

相 手 機 関	委 嘱 期 間	氏 名
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	木幡邦男
独立行政法人 海洋研究開発機構	H26.11. 1～H27. 3.31	原政之
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	長谷川就一
中国遼寧大学環境学院	H22. 1. 1～H26.12.31	王効拳
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	渡辺洋一
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	長森正尚
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	川寄幹生
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	長谷隆仁
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	磯部友護
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 8.28～H27. 3.31	鈴木和将
独立行政法人 産業技術総合研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	堀井勇一
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	木持謙
独立行政法人 国立環境研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	渡邊圭司
立命館大学総合科学技術研究機構	H26. 4. 1～H27. 3.31	見島伊織
東京大学地震研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	濱元栄起
総合地球環境学研究所	H26. 4. 1～H27. 3.31	濱元栄起

(3) 国、地方自治体の委員会等の委員委嘱

(57件)

委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
中央環境審議会	環境省	H25.2.8～H27.2.7	坂本和彦
中央環境審議会	環境省	H27.2.8～H29.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気・騒音振動部会	環境省水・大気環境局	H25.2.14～H27.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気・騒音振動部会	環境省水・大気環境局	H25.2.13～H29.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気・騒音振動部会自動車排出ガス専門委員会	環境省水・大気環境局	H25.3.13～H27.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気・騒音振動部会自動車排出ガス専門委員会	環境省水・大気環境局	H27.3.17～H29.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気騒音・振動部会微小粒子状物質等専門委員会	環境省水・大気環境局	H26.2.19～H27.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気騒音・振動部会微小粒子状物質等専門委員会	環境省水・大気環境局	H27.2.25～H29.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気騒音・振動部会水銀大気排出対策小委員会	環境省水・大気環境局	H26.5.27～H27.2.7	坂本和彦
放射性物質汚染対処特措法施行状況検討会	環境省水・大気環境局	H27.3.12～H27.3.31	坂本和彦
光化学オキシダント調査検討会	環境省水・大気環境局	H26.9.4～H27.3.31	坂本和彦
大気汚染状況常時監視に関する事務処理基準の改正に向けたPM2.5測定値に関する検討会	環境省水・大気環境局	H26.10.15～H27.3.25	坂本和彦
大気中微小粒子状物質成分測定マニュアル検討会	環境省水・大気環境局	H26.10.6～H27.3.25	坂本和彦
微小粒子状物質(PM2.5)に関する専門家会合	環境省水・大気環境局	H26.10.15～H27.3.31	坂本和彦
大気環境における常時監視体制及び精度管理体制に関する検討業務に係る検討会	環境省水・大気環境局	H26.11.6～H27.3.25	坂本和彦
PM2.5排出インベントリ及び発生源プロファイル策定検討会	環境省水・大気環境局	H26.7.24～H27.3.25	坂本和彦
低炭素型車両・設備導入事業検証・評価委員会	環境省水・大気環境局	H26.8.18～H27.3.31	坂本和彦
災害時の発電機稼働に伴う大気環境影響調査検討会	環境省水・大気環境局	H26.9.29～H27.3.31	坂本和彦
微小粒子状物質(PM2.5)発生源割合推計に関する検討会	環境省水・大気環境局	H26.12.16～H27.3.25	坂本和彦
微小粒子状物質(PM2.5)自動測定機1時間値に関する精度解析検討会	環境省水・大気環境局	H27.1.8～H27.3.25	坂本和彦
環境技術実証事業運営委員会	環境省総合環境政策局	H26.5.22～H27.3.31	坂本和彦
環境影響審査助言委員会	環境省総合環境政策局	H26.4.17～H27.3.31	坂本和彦
環境影響評価法に基づく基本的事項等に関する技術検討委員会	環境省総合環境政策局	H26.4.17～H27.3.31	坂本和彦
環境技術実証事業VOC等簡易測定技術分野技術実証検討会	環境省総合環境政策局	H26.6.18～H27.3.27	坂本和彦
大気環境モニタリング検討会	東京都環境局	H25.4.15～H27.4.14	坂本和彦
千葉県環境審議会	千葉県環境生活部	H25.7.12～H27.7.11	坂本和彦
川崎市環境審議会	川崎市環境局	H26.3.1～H28.2.29	坂本和彦
中央環境審議会専門委員	環境省水・大気環境局	H23.10.12～	木幡邦男
有明海・八代海等再生評価支援(有明海二枚貝類の減少要因解明等調査)業務にかかる検討委員会	環境省水・大気環境局	H26.4.11～H27.3.31	木幡邦男
下層DO及び透明度環境基準検討会	環境省水・大気環境局	H26.4.17～H27.3.27	木幡邦男
皇居外苑濠水環境管理検討会	環境省自然環境局	H26.6.18～H27.3.31	木幡邦男
加須市環境審議会	加須市環境安全部	H26.7.1～H28.6.30	木幡邦男

委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
春日部市環境審議会	春日部市環境政策推進課	H26.5.1～H28.4.30	木幡邦男
さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市環境局	H25.5.27～H27.5.26	木幡邦男
光化学オキシダント調査検討会	環境省水・大気環境局	H26.9.9～H27.3.31	竹内庸夫
大腸菌環境基準検討会	環境省水・大気環境局	H26.12.26～H27.3.25	高橋基之
臭気判定士試験委員会	環境省水・大気環境局	H25.4.18～H27.3.31	梅沢夏実
生物多様性かぞ戦略策定検討委員会	加須市環境安全部	H25.9.17～	嶋田知英
加須市加須未来館プラネタリウム選定検討委員会	加須市生涯学習部	H26.5.1～H27.3.31	嶋田知英
足立区環境基金審査会	東京都足立区環境部	H26.7.3～H28.3.31	嶋田知英
さいたま市廃棄物処理施設専門委員会	さいたま市環境局	H26.4.1～H28.3.31	松本利恵
大気汚染状況常時監視に関する事務処理基準の改正に向けたPM2.5測定値に関する検討会	環境省水・大気環境局	H26.10.15～H27.3.25	米持真一
微小粒子状物質(PM2.5)自動測定機1時間値に関する精度解析検討会	環境省水・大気環境局	H27.1.13～H27.3.25	米持真一
指定物質基礎情報等調査検討会	環境省水・大気環境局	H27.1.30～H27.3.31	米持真一
微小粒子状物質(PM2.5)測定法評価検討会	環境省水・大気環境局	H27.3.2～H27.3.25	米持真一
微小粒子状物質等疫学調査研究検討会	環境省水・大気環境局	H26.5.19～H27.3.24	長谷川就一
微小粒子状物質等疫学調査実施班	環境省水・大気環境局	H26.5.19～H27.3.24	長谷川就一
大気中微小粒子状物質成分測定マニュアル検討会	環境省水・大気環境局	H26.10.14～H27.3.25	長谷川就一
微小粒子状物質等大気汚染物質に係る毒性学調査研究に関する検討会	環境省水・大気環境局	H26.12.9～H27.3.31	長谷川就一
行田市みどりの基本計画策定委員会	行田市都市計画課	H27.1.15～H28.3.31	三輪誠
春日部市ごみ減量化・資源化等推進審議会	春日部市資源循環推進課	H26.6.13～H28.4.30	渡辺洋一
小型電子機器等リサイクルシステム構築実証事業(再資源化事業者提案型)選定委員会	環境省廃棄物・リサイクル対策部	H26.5.1～H27.3.31	川崎幹生
市町村等による廃棄物処理施設整備の適正化推進事業検討委員会	環境省廃棄物・リサイクル対策部	H26.7.1～H27.3.31	川崎幹生
鴻巣行田北本環境資源組合新施設建設等検討委員会	鴻巣行田北本環境資源組合	H26.8.1～H27.3.31	川崎幹生
ISO/TC147(水質)国際標準化対応委員会	経済産業省	H26.7.7～H27.2.27	堀井勇一
環境技術実証事業湖沼等水質浄化技術分野技術実証検討会	環境省水・大気環境局	H26.6.1～H27.3.31	田中仁志
排水管理のバイオアッセイ技術検討分科会	環境省水・大気環境局	H27.1.5～H27.3.31	田中仁志

(4) 研修会・講演会等の講師

(179件)

期日	名称	開催場所	氏名
H26. 4. 9	NPO法人川口市環境会議出前講座 「地球環境問題の概要」	環境科学国際センター	竹内庸夫
H26. 4. 29	NPO法人荒川流域ネットワーク「標識アユ放流調査(都幾川)」	ときがわ町	金澤光
H26. 4. 29	NPO法人荒川流域ネットワーク「標識アユ放流調査(高麗川)」	日高市	金澤光
H26. 5. 10	鴻巣の環境を考える会総会 「海の水環境について」	鴻巣市	木幡邦男
H26. 5. 10	広域大学連携科目(武庫川女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、大阪電気通信大学、大阪薬科大学、関西大学、藍野大学)社会教育プログラム 「健康環境論」	大阪大学	長谷川就一
H26. 5. 10	アサガオ被害調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H26. 5. 10	埼玉県市町村職員研修(前期課程)騒音振動測定実習	さいたま市	濱元栄起

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H26. 5. 11	アサガオ被害調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H26. 5. 14	日本工業大学出前講座 「埼玉県の環境問題(大気環境)」	日本工業大学	梅沢夏実
H26. 5. 15	NPO法人埼玉エコ・リサイクル連絡会通常総会 「一般廃棄物不燃ごみ・粗大ごみの適正処理に関する研究」	さいたま市	川寄幹生
H26. 5. 17	NPO法人エコロジー夢企画 「アユ遡上状況調査(綾瀬川)」	さいたま市	金澤光
H26. 5. 20	彩の国いきがい大学春日部学園 「埼玉の水環境」	春日部市	見島伊織
H26. 5. 21	日本工業大学出前講座 「埼玉の水環境」	日本工業大学	見島伊織
H26. 5. 23	北埼玉地区退職校長会出前講座 「微小粒子状物質PM2.5」	加須市	長谷川就一
H26. 5. 25	西埼玉温暖化対策ネットワーク通常総会記念講演 「地球温暖化(影響と対策)」	川越市	嶋田知英
H26. 5. 25	NPO法人荒川流域ネットワーク「アユ遡上作戦調査(入間川)」	川越市	金澤光
H26. 5. 26	第84回日本衛生学会学術総会シンポジウム 「わが国のPM2.5の大気環境濃度の現状」	岡山市	長谷川就一
H26. 5. 27	狭山市立富士見集会所・ふじみ寿大学 「埼玉の湧水と名水～身近な水源を知っていますか～」	狭山市	高橋基之
H26. 5. 28	日本工業大学出前講座 「土壌・地下水環境」	日本工業大学	濱元栄起
H26. 5. 30	日本エアロゾル学会第10回エアロゾルシンポジウム 第Ⅰ部入門セミナー PM2.5成分分析の基礎知識 「PM2.5炭素成分の測定法」	さいたま市	長谷川就一
H26. 5. 31	新河岸川水系水環境連絡会 「標識アユ放流調査(黒目川)」	新座市	金澤光
H26. 6. 3	環境学習教材開発研修会(総合教育センター江南支所) 「生物多様性」(講義、生態園実習)	環境科学国際センター	嶋田知英
H26. 6. 3	埼玉県立松山高等学校SS科学探究Ⅰ 「日常生活と水環境」	県立松山高等学校	木持謙
H26. 6. 4	加須公民館講座 「中国の経済発展と環境問題」	加須市	王効拳
H26. 6. 4	日本工業大学出前講座 「埼玉県の環境問題(資源循環・廃棄物)」	日本工業大学	渡辺洋一
H26. 6. 5	上里東小学校PTA研修会 「埼玉県の大気環境」	上里町立上里東小学校	梅沢夏実
H26. 6. 6	鴻巣市立川里中学校校外学習 「地球のなりたち」	環境科学国際センター	濱元栄起
H26. 6. 10	彩の国いきがい大学入間学園 「微小粒子状物質PM2.5」	入間市	長谷川就一
H26. 6. 11	日本工業大学出前講座 「生物多様性について考えよう」	日本工業大学	三輪誠
H26. 6. 12	彩の国いきがい大学伊奈学園 「大気汚染の現状と課題」	伊奈町	梅沢夏実
H26. 6. 14	さいたま市民大学教養コース 「微小粒子状物質PM2.5」	さいたま市	米持真一
H26. 6. 17	「高等学校における持続可能な開発のための教育(ESD)の調査研究」第1回調査研究協力委員会 「これからの環境教育に必要な視点について～今日の環境問題と視点～」	熊谷市	坂本和彦
H26. 6. 17	篠津川辺保全隊事業 「自然観察会」	桶川市	金澤光
H26. 6. 18	本庄市立藤田小学校総合的な学習 「元小山川・小山川研究」	本庄市	金澤光
H26. 6. 18	日本工業大学出前講座 「私たちの生活と化学物質(環境編)」	日本工業大学	野尻喜好
H26. 6. 21	アサガオ被害調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H26. 6. 22	第11回杉戸アースデー出前講座 「地球温暖化の実態と埼玉県への影響」	杉戸町	嶋田知英
H26. 6. 22	富士見市立水谷公民館 「川の学習会(柳瀬川)」	富士見市	金澤光
H26. 6. 22	川に学ぶ体験活動協議会(RAC)リーダー養成講習会 「川という自然の理解」	長瀨町	金澤光
H26. 6. 23	「オゾン及び微小粒子状物質(PM2.5)抑制のための計画策定能力向上プロジェクト」中国訪日研修 「PM2.5の発生源と生成メカニズム」	東京都渋谷区	坂本和彦

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H26. 6. 25	日本工業大学出前講座 「地球温暖化(影響と対策)」	日本工業大学	嶋田知英
H26. 6. 28	川の再生地域交流会 in 熊谷 「ムサントミヨの生息状況について」	熊谷市	金澤光
H26. 6. 29	(一社)環境浄化技術協会安全衛生推進大会 「石綿問題に対するこれまでの取り組み」	松山市	川寄幹生
H26. 7. 1	本庄市市民総合大学出前講座 「地球環境問題の概要」	本庄市	嶋田知英
H26. 7. 4	上尾市大谷公民館講座 「いま、地球環境は？」	上尾市	嶋田知英
H26. 7. 4	東松山市立野本小学校出前講座 「日常生活と水環境」	東松山市立野本小学校	木持謙
H26. 7. 5	自然体験イベント 「川の生き物みつけ隊～里川保全活動～(男堀川)」	本庄市	金澤光 木持謙
H26. 7. 6	小川町 「田んぼのいきもの観察会」	小川町	嶋田知英
H26. 7. 6	コープみらい 「田んぼの生きものさがし」	川島町	金澤光
H26. 7. 7	大気規制に係る測定方法等研修会(県大気環境課) 「ばい煙測定方法の概要、留意点及び測定データの読み方」 「石綿の分析方法の概要、実地研修」 「VOCの測定方法の概要」 「ダイオキシン類の分析方法に係る留意点及び測定結果の見方等」	環境科学国際センター	佐坂公規 大塚宜寿
H26. 7. 8	本庄市市民総合大学出前講座 「光触媒って何？」	本庄市	米持真一
H26. 7. 10	高齢者学級出前講座 「地球温暖化(影響と対策)」	皆野町	武藤洋介
H26. 7. 11	彩の国いきがい大学鷲宮学園24期校友会出前講座 「中国の環境は今どうなっているか？日本への影響は？」	久喜市	王効拳
H26. 7. 14	公害防止管理者育成研修(大気関係) 「PM2.5の現状と課題」	千葉市	坂本和彦
H26. 7. 14	ムサントミヨ保全推進協議会総会 「元荒川に侵入した外来生物」	熊谷市	金澤光
H26. 7. 16	ポーライト(株)ISO14001環境教育 「地球温暖化(影響と対策)」	さいたま市	嶋田知英
H26. 7. 16	三俣公民館講座(「三俣女性会」との共催事業) 「微小粒子状物質PM2.5」	加須市	米持真一
H26. 7. 17	リンテック株式会社熊谷工場 ISO14001 生物多様性保全講習会 「生物多様性教育」	熊谷市	嶋田知英
H26. 7. 19	環境科学国際センター夏休み特別企画 「川の生き物で環境調査をしよう」	環境科学国際センター	田中仁志
H26. 7. 20	チーム エナセーブ未来プロジェクト 「世界で一つだけの元荒川ムサントミヨ生息地保護活動」	熊谷市	金澤光
H26. 7. 21	県民実験教室 「大気の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	梅沢夏実 佐坂公規
H26. 7. 22	本庄市市民総合大学出前講座 「日常生活と水環境～私たちに何ができるか～」	本庄市	木持謙
H26. 7. 23	熊谷市ムサントミヨをまもる会総会 「元荒川に侵入した外来生物」	熊谷市	金澤光
H26. 7. 26	彩の国環境大学修了生の会 「環境科学国際センターにおける酸性雨を中心とした調査研究事例の紹介」	鴻巣市	松本利恵
H26. 7. 27	夏休み特別企画 「水の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	見島伊織 渡邊圭司
H26. 7. 29-30	夏休み特別企画 「サイエンスショー」	環境科学国際センター	大塚宜寿 蓑毛康太郎
H26. 8. 1	加須市環境政策課主催「浮野の里」自然観察会 「川や用水の生き物調査(浮野の里昆虫観察会)」	加須市	嶋田知英
H26. 8. 2	生態園体験教室 「昆虫の標本を作ろう」	環境科学国際センター	嶋田知英

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H26. 8. 3	鶴ヶ島の自然を守る会 「里川体験会ー里山と小川を知る里川探検ー(飯盛川)」	鶴ヶ島市	金澤光
H26. 8. 6	加須市環境政策課主催「浮野の里」自然観察会 「水生生物観察」	加須市	田中仁志 木持謙 渡邊圭司
H26. 8. 12	放送大学熟年会の定期勉強会 「微小粒子状物質PM2.5」	さいたま市	米持真一
H26. 8. 17	NPO法人荒川流域ネットワーク 「地曳網体験 in 高麗川」	日高市	金澤光
H26. 8. 19	上尾市環境推進協議会環境問題学習会 「埼玉県の大气環境」	上尾市	梅沢夏実
H26. 8. 21	夏休み親子3R講座(県資源循環推進課主催) 「プラスチックを分別しよう」	環境科学国際センター	川寄幹生
H26. 8. 23	彩の国環境大学公開講座 「大气環境～東京、ソウル、北京オリンピックと関連して～」	環境科学国際センター	坂本和彦
H26. 8. 28	春日部市小中学校事務職員現地研修会 「微小粒子状物質PM2.5」	環境科学国際センター	米持真一
H26. 8. 30	NPO法人荒川流域ネットワーク 「地曳網体験 in 入間川」	川越市	金澤光
H26. 9. 2	彩の国いきがいの大学熊谷学園 「埼玉の水環境」	熊谷市	柿本貴志
H26. 9. 4	日本医薬品卸勤務薬剤師会埼玉県支部継続研修会 「微小粒子状物質PM2.5」	さいたま市	長谷川就一
H26. 9. 5	さいたま市水環境ネットワーク視察研修会 「埼玉県の水環境」	環境科学国際センター	柿本貴志
H26. 9. 6	彩の国環境大学修了生の会 「ダイオキシン問題は終わったか？」	さいたま市	野尻喜好
H26. 9. 7	身近な環境観察局 新規応募者研修会	環境科学国際センター	嶋田知英
H26. 9. 11	肥塚公民館ふれあい教室 「中国の環境は今どうなっているか？日本への影響は？」	熊谷市	王効拳
H26. 9. 14	大曾根の湿地ビオトープを守る会 9月例会 「生物多様性とその保全の概要」	八潮市	嶋田知英
H26. 9. 14	NPO法人荒川流域ネットワーク 「地曳網体験 in 越辺川」	鳩山町	金澤光
H26. 9. 19	グローバル生態産業研究センターの設立に関する国際セミナー 「埼玉県環境科学国際センターの設立経緯と運営方法について」	韓国蔚山市	星野弘志
H26. 9. 19	(一財)日本環境衛生センター建築物石綿含有建材調査者講習 「第5講座 その他石綿含有建材(成形板など)の調査」	川崎市	川寄幹生
H26. 9. 20	第7回いい川・いい川づくりワークショップ全国大会 「埼玉県の生息魚類について」	東京都渋谷区	金澤光
H26. 9. 20	わくわくホリデー環境科学講座 「水の性質を調べてみよう」	鴻巣市	見島伊織 渡邊圭司
H26. 9. 24	東松山市きらめき市民大学 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	東松山市	米持真一
H26. 9. 24	加須市北川辺地域まちづくり市民会議出前講座 「自然の力で水質浄化」	加須市	木持謙
H26. 9. 26	入間市立金子公民館 長寿学級 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	入間市	米持真一
H26. 9. 27	熊谷市ムサントミヨをまもる会、埼玉県生態系保護協会 「ムサントミヨの生息地等の視察会」	熊谷市	金澤光
H26. 9. 28	飯盛川生き物探し隊	鶴ヶ島市	金澤光
H26. 9. 30	NPO法人環境とエネルギー 「埼玉県における地中熱エネルギー」	さいたま市	濱元栄起

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H26. 10. 4	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県の温暖化の実態とその影響－温暖化の生物・農業・健康への影響－」	環境科学国際センター	嶋田知英
H26. 10. 5	行田環境市民フォーラム 第18回公開学習会 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	行田市	長谷川就一
H26. 10. 5	自然体験イベント 「川の生き物みつけ隊～里川保全活動～(男堀川)」	本庄市	金澤光 木持謙
H26. 10. 8	「埼玉県微小粒子状物質(PM2.5)に係る注意喚起要綱」の改正に関する説明会	さいたま市	米持真一 長谷川就一
H26. 10. 9	環境アドバイザー講演会 「地球温暖化(影響と対策)」	県立白岡高等学校	嶋田知英
H26. 10. 10	独立行政法人水資源機構環境学習会 「埼玉の湧水と名水」	さいたま市	高橋基之
H26. 10. 10	公害防止主任者資格認定講習(騒音・振動関係) 「振動の性質・測定技術(振動関係)」「振動防止技術」	さいたま市	白石英孝 濱元栄起
H26. 10. 11	彩の国環境大学基礎課程 「化学物質と私たちの暮らし」	環境科学国際センター	野尻喜好
H26. 10. 14-15	日中水環境技術交流会in杭州 「日本における水環境保全概論」 「日本における重要水域の流域管理のあり方」 「日本における下水汚泥処理の現状と対策」	中国浙江省杭州市	木幡邦男 王効拳 渡邊圭司
H26. 10. 15	環境学習教材開発研修会(総合教育センター江南支所) 「初秋の生態園観察」「大気の調査」「環境水の水質調査法」 「身近な環境水の水質調査」「水質浄化実験」	環境科学国際センター	嶋田知英 梅沢夏実 松本利恵 佐坂公規 田中仁志 木持謙
H26. 10. 16	板橋環境管理研究会 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	東京都板橋区	長谷川就一
H26. 10. 16-17	公害防止主任者資格認定講習(大気関係) 「燃焼・ばい煙防止技術」「測定技術」	さいたま市	松本利恵 佐坂公規 長谷川就一
H26. 10. 16	産業廃棄物処理等技術研修会(岡山市・岡山市・倉敷市共催) 「アスベスト調査の基礎と見分け方の実技講習」	岡山市	川寄幹生 鈴木和将
H26. 10. 20	ムサシトミヨ繁殖調査	熊谷市立熊谷東中学校	金澤光
H26. 10. 21-22	公害防止主任者資格認定講習(水質関係) 「汚水処理技術一般」「測定技術」	さいたま市	木持謙 柿本貴志
H26. 10. 21	彩の国いきがい大学熊谷学園 「埼玉の地盤環境」	熊谷市	八戸昭一
H26. 10. 23	公害防止主任者資格認定講習(ダイオキシン類関係) 「測定技術」	さいたま市	藁毛康太郎
H26. 10. 25	新座市民総合大学出前講座 「埼玉県における生物多様性への取り組み」	跡見学園女子大学	三輪誠
H26. 10. 25	NPO法人エコロジー夢企画 「綾瀬川大曾根ビオトープ魚類調査」	八潮市	金澤光
H26. 10. 25	彩の国環境大学基礎課程 「健全な水循環と里川の再生」	環境科学国際センター	木持謙
H26. 10. 29	本庄市立藤田小学校総合的な学習 「元小山川・小山川研究」	本庄市	金澤光
H26. 10. 29	茨城県水道実務担当者会議 「埼玉県における健全な水循環構築への取り組み」 ・安全な水道水の提供(セーフティネットと緊急対応) ・里川再生プロジェクトの概要	水戸市	木持謙
H26. 10. 30	ふじみ野市町会・自治会連合会環境学習会 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	ふじみ野市	米持真一
H26. 11. 1	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県の大気環境」	環境科学国際センター	梅沢夏実
H26. 11. 6	ムサシトミヨ繁殖調査	熊谷市立佐谷田小学校	金澤光

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H26. 11. 11	彩の国いきがい大学伊奈学園 「大気汚染の現状と課題」	伊奈町	梅沢夏実
H26. 11. 13	春日部市環境政策推進課主催環境保全リーダー養成講座 「よくわかるPM2.5～初歩から発生源まで～」	春日部市	長谷川就一
H26. 11. 13	ムサシトミヨ繁殖調査	熊谷市立久下小学校	金澤光
H26. 11. 14	県民の日特別企画 「サイエンスショー196℃の世界」	環境科学国際センター	米持真一 佐坂公規
H26. 11. 14	平成26年度県庁オープンデー環境部企画「環ジャリ∞」	さいたま市	梅沢夏実
H26. 11. 14	県民の日特別企画 「移動式！化学実験ショーMini」	環境科学国際センター	大塚宜寿
H26. 11. 15	かわぐち環境大学 「埼玉県における気候変動とその影響について」	川口市	嶋田知英
H26. 11. 18	飯能市環境衛生推進協議会視察研修 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	環境科学国際センター	長谷川就一
H26. 11. 19	彩の国いきがい大学東松山学園 「地球温暖化(影響と対策)」	東松山市	武藤洋介
H26. 11. 25	時代を刷新する会環境技術委員会 「昨年1月のPM2.5高濃度現象と日中韓共同観測」	東京都千代田区	米持真一
H26. 11. 25	藤田小学校総合的な学習 「元小山川と小山川の生きもの・水質調査結果について」	本庄市立藤田小学校	金澤光
H26. 11. 26	化学物質地域研修会(久喜) 「久喜菖蒲工業団地及び清久工業団地周辺の大気環境調査結果」	久喜市	茂木守
H26. 11. 27	加須市教育研究会環境教育研究部主任研究協議会 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	環境科学国際センター	米持真一
H26. 11. 28	彩の国いきがい大学熊谷学園 「埼玉県の大气環境」	熊谷市	梅沢夏実
H26. 11. 28	出羽堀流域生活排水対策一斉取り組みに係る報告会 「水質調査結果について」	越谷市	柿本貴志
H26. 12. 1	生きがいセミナー出前講座 「私たちの生活と化学物質(生活編)」	加須市	野尻喜好
H26. 12. 4	彩の国いきがい大学伊奈学園 「生物多様性とその保全」	伊奈町	嶋田知英
H26. 12. 4	水環境課 異常水質事故に係る研修会 「魚へい死事故への対応について」	さいたま市	金澤光
H26. 12. 5	環境省近畿地方環境事務所 地球温暖化への適応策勉強会 「地方公共団体での取組事例紹介」	大阪市	嶋田知英
H26. 12. 5	化学物質地域研修会(入間) 「武蔵・狭山台工業団地周辺大気環境調査結果について」	入間市	茂木守
H26. 12. 5	さいたま市シニアユニバーシティ東浦和第7期校友会 「地球のなりたち」	さいたま市	濱元栄起
H26. 12. 12	旭小学校 旭環境フォーラム 「生態系」「酸性雨」	本庄市立旭小学校	嶋田知英 松本利恵
H26. 12. 16	ふじみ野市環境審議会 「よくわかるPM2.5 ～初歩から発生源まで～」	環境科学国際センター	長谷川就一
H26. 12. 16	みやしろ大学出前講座 「私たちの生活と化学物質(生活編)」	宮代町	野尻喜好
H26. 12. 17	あだち環境ゼミナール 「生物多様性とその保全」	東京都足立区	嶋田知英
H27. 1. 17	彩の国環境大学修了生の会出前講座 「埼玉の湧水と名水」	さいたま市	高橋基之
H27. 1. 17	新座市環境保全協力員の会研修会 「地球温暖化の実態と埼玉県への影響(農業・生物・健康)」	新座市	嶋田知英
H27. 1. 17	彩の国環境大学修了生の会出前講座 「埼玉県の希少動物の現状と保護」	さいたま市	金澤光
H27. 1. 21	さいたま市水環境ネットワーク講演会 「自然の力で水質浄化」	さいたま市	木持謙

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H27. 1. 22	埼玉県環境事務研究会連合会 45周年記念事業環境講演会 「PM2.5に関する現状と課題」	戸田市	米持真一
H27. 1. 22	水質担当者研修 「精度管理について」	寄居町	木持謙
H27. 1. 24	彩の国環境大学修了者フォローアップ講座 「中国の環境は今どうなっているか？日本への影響は？」	環境科学国際センター	王効拳
H27. 1. 24	生ごみの減量化について考える市民の交流会 「ごみ処理における地域創生～将来にわたって持続可能なごみ処理を維持するために～」	熊谷市	川寄幹生
H27. 1. 26	石綿飛散防止対策研修会(県大気環境課主催) 「石綿含有建材の見分け方」	さいたま市	川寄幹生
H27. 1. 28	八千代工業(株) ISO14001環境啓蒙活動研修会 「地球温暖化(影響と対策)」	狭山市	嶋田知英
H27. 1. 29	彩の国いきがい大学東松山学園 「埼玉の湧水と名水」	東松山市	高橋基之
H26. 1. 30	埼玉県環境計量協議会新春講演会 「落鳥の原因について」	さいたま市	茂木守
H27. 2. 3	平成26年度埼玉県環境科学国際センター講演会 「ハウレンソウやコマツナの葉に発現するオゾン被害の軽減 ～オゾンに強い品種の利用について～」 「埼玉県における有機シリコン化合物の水環境モニタリング ～身近な化学物質の環境リスク～」 「生物に起因する河川の景観悪化現象 ～その原因は油や塗料ではありません～」	さいたま市	三輪誠 堀井勇一 池田和弘
H27. 2. 5	富士通環境ダイアログ 「気候変動への適応(農業分野)」	川崎市	嶋田知英
H27. 2. 6	環境再生保全機構平成26年度大気環境対策セミナー ～PM2.5の現状と今後の課題について～ 「炭素成分測定法について」	大阪市	長谷川就一
H27. 2. 6	廃棄物系バイオマスからのエネルギー利用新技術開発に関する公開講演会 「開発プロセスの地域適用性シナリオと評価」	岡山大学	鈴木和将
H27. 2. 6	環境省環境調査研修所 平成26年度ダイオキシン類モニタリング研修(専門課程)排ガスコース 「自治体における排出ガス中ダイオキシン類の分析について」	所沢市	大塚宜寿
H27. 2. 7	第10回川の日ワークショップ関東大会 「埼玉県に侵入した外来甲殻類等について」	東京農業大学	金澤光
H27. 2. 12	大幡中学校環境学習 「日常生活と水環境」	熊谷市立大幡中学校	木持謙
H27. 2. 13	埼玉県環境計量協議会技術研修会 「埼環協の共同実験から見たBOD分析について」	さいたま市	見島伊織
H27. 2. 21	身近な環境観察局ワーキンググループ発表会 「光化学スモッグによるアサガオ被害調査結果報告」 「埼玉の水環境」	環境科学国際センター	三輪誠 田中仁志
H27. 2. 24	越谷市環境学習会 「埼玉の水環境」	環境科学国際センター	柿本貴志
H27. 2. 24	羽生市環境講座 「埼玉の水環境」	羽生市	渡邊圭司
H27. 2. 25	第27回酸性雨東京講演会 「全国の酸性雨(乾性沈着)分布－ 全国環境研協議会酸性雨全国調査結果」	法政大学	松本利恵
H27. 2. 26	彩の国いきがい大学伊奈学園 「埼玉の水環境と里川の再生」	伊奈町	田中仁志
H27. 2. 28	生態園体験教室 「絶滅危惧種を守ろう－希少野生植物「サワトランオ」の植え替え体験－」	環境科学国際センター	三輪誠 王効拳
H27. 3. 5	(一財)埼玉県警察福祉協会役員会 「中国の環境は今どうなっているか？日本への影響は？」	さいたま市	王効拳
H27. 3. 6	さいたま市水道局職員研修会 「日常生活と水環境」	さいたま市	木持謙
H27. 3. 7	鴻巣の環境を考える会 「IPCC第5次報告と鴻巣市に期待するもの」 「生き物から見た水環境－水生生物を用いた水質調査－」	鴻巣市	嶋田知英

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H27. 3. 7	川越市中央公民館 環境科学国際センター見学	環境科学国際センター	田中仁志
H27. 3. 10	JA東京むさし小平地区青壮年部出前講座 「土壌汚染と植物による修復技術」	環境科学国際センター	王効拳
H27. 3. 12	関東地方大気環境対策推進連絡会浮遊粒子状物質合同調査 会議講演会 「関東地方におけるPM2.5高濃度事例の解析」	静岡市	長谷川就一
H27. 3. 19	彩の国いきがい大学伊奈学園 「埼玉県の希少動物の現状と保護」	環境科学国際センター	金澤光
H27. 3. 20	廃棄物資源循環学会関東支部講演会 「埼玉県環境科学国際センターの研究活動紹介」	早稲田大学	鈴木和将

5.6 表彰

全国環境研協議会関東甲信静支部 支部長表彰

梅沢夏実

表彰理由

埼玉県環境科学国際センターの前身である埼玉県公害センターで平成元年度から11年間在職し、3年間の行政経験(大気保全課/騒音・振動・悪臭を担当)を基に、工場騒音予測システムの開発、高密度地盤情報システムの開発などを手掛けるとともに、微動探査法の中心となる位相速度を解析する(地下構造を推定する)ためのソフト開発や観測を行う傍ら、市町村においては解決困難な騒音振動関連の苦情現場における調査を数多く実施し、苦情の解決に導いた。平成12年度から現在までは、埼玉県環境科学国際センター大気環境担当に在職し、多環芳香族炭化水素類、水銀、粒子状物質、石綿、悪臭などの様々な項目の調査研究を積極的に実施している。また、環境教育などの啓発事業にも進んで取り組み、中高生や一般県民向けの出前講座や、子供向けの実験教室やサイエンスショーなどを行っている。

さらに、全国環境研協議会関連では、関東甲信静支部大気専門部会において調査研究や環境教育の事例発表等の情報提供を行うなど、環境行政に対する寄与並びに環境保全に対する研究活動及び研究指導の功績は多大である。

大気環境学会論文賞

山神真紀子⁸³⁾、佐川竜也¹¹⁶⁾、中戸靖子⁶⁶⁾、長田健太郎⁷⁵⁾、米持真一、山本勝彦⁶⁶⁾、山田大介²⁾、
芝和代¹¹⁷⁾、山田克則⁶⁰⁾、菅田誠治²¹⁾、大原利真²¹⁾

表彰理由

大気環境学会誌Vol.48、No.4、pp.196-205に掲載された論文「2011年2月上旬に観測された広域的なPM2.5高濃度エピソードの要因推定」は、全国の既存観測データを活用したPM2.5高濃度事例の要因解析に関する研究である。観測、後方流跡線解析、化学輸送モデルを駆使して複数の切り口から多角的に考察し、高濃度要因として越境輸送のみならず、都市大気汚染の影響が大きかったことを明らかにした。本論文は、事例解析結果として貴重な知見を含んでおり、越境大気汚染と国内都市大気汚染の寄与の識別を行い、社会的ニーズに応えているとして評価された。

全国環境研協議会 会長表彰

倉田泰人

表彰理由

埼玉県内で発生した不法投棄および産業廃棄物による規模の大きな廃棄物の山の調査を実施し、それから得られた生活環境保全上の支障に関する評価は、廃棄物の山の撤去や支障の軽減・除去に活用された。また、建設廃木材中の木材保存剤の研究や最終処分場浸出水中の微量有機化学物質に関する研究を行うなど、化学物質の有害性の視点から、廃棄物処理の方向性を提言するなど環境行政に貢献した。さらに、中国山西省の廃棄物処理の改善に向けた取組を現地および国内で行い、海外技術協力に貢献した。

日本学術振興会 審査委員表彰

白石英孝

表彰理由

日本学術振興会では、科研費に係る業務において、配分審査として2段階の審査(第1段:書面審査、第2段:合議審査)を行っている。また、審査終了後には審査結果の検証が行われ、有意義な審査意見を付した審査委員に対して表彰が行われている。本件はこの制度に基づいて表彰されたものである。